

紀伊國續風土記

六十七六十八

日高郡 五六

和書門類		二九〇七一號	函	一	架	三	冊	九四
------	--	--------	---	---	---	---	---	----

和書類		二九〇七一號	冊	九四	函	二	架	二七五
-----	--	--------	---	----	---	---	---	-----

内閣文庫		番號	和 29071
		冊數	94 ( 37 )
		函號	175   201



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak



糊などで貼り付けられている部分がめくれない箇所あり



紀伊續風土記卷之六十七

高郡第五

岩内莊 伊波字智

総四箇村

シモ下野口村

カミ上野口村

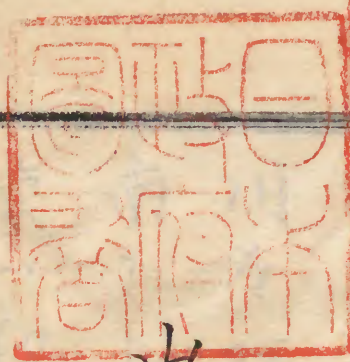
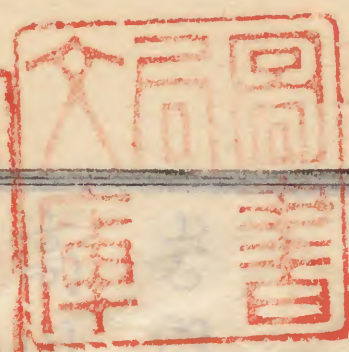
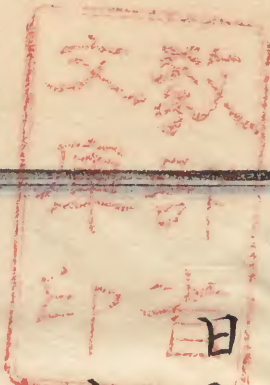
ユヤ熊野村

イハ岩内村

山田莊 也麻駭

ナ名屋浦

総九箇村



莊論

内一〇一八〇號



北塩屋浦

天田村 北塩屋浦枝郷

猪野々村 北塩屋浦枝郷

南塩屋浦

森岡村

南谷村

明神川村

立石村

上野荘 宇邊乃 総四箇村

野島村

上野村

楠井村

津井村

岩内山田上野三荘合せて十七箇村岩内荘ハ日  
高川下流の南崖ニありて北ハ矢田財部二荘ト  
川を隔て 相對ニ岩内荘の南ニ山田荘あり其  
南ニ上野荘あり上野荘北南印南荘ト接し三荘  
東ハ印南川上一荘ト界し西北方峯海岸ニ臨む















分ちてこれに以て上野莊四箇村海岸に連な  
りて山を負ひ海に面し山田岩内二莊各小溪の  
中を占めり岩内最小なり三莊を通りて其廣袤  
を計りて東西二里許南北二里半餘海濱南北の  
一道ハ熊野往還なる故に茶店旅舎往々あり  
て旅客の求むる所其用乏しかりて谷中此諸村  
も谷深からん路險なり尋常の村落といふべ  
し此地を古に財部郷の内ならん後世に湯川氏  
此領内なり

岩内莊

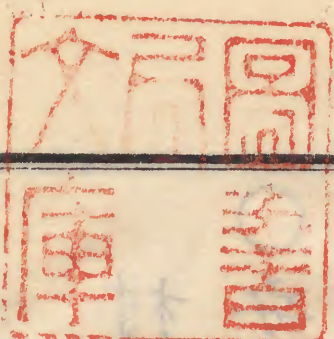
下野口村

志毛乃具智

田畑高 七百五十三石三斗四升七合  
家數 百七十一軒  
人數 六百九十九人

矢田莊藤井村の巽川を隔て、八町より舊  
上野口と一村なり地形小なり岩内莊に

下野口村





曠野の入口に義なり村の坤岩内村塚あり  
を小名神森といふ

○聖徳太子社

境内周五町五十間

本社 表行四尺八寸

末社二社

拜殿

村の南北山あり

○安樂寺

浄土真宗西派蘭御坊附

本堂

鐘樓

村中にあり傳へいふ先祖玉置氏に被官伊藤  
治部次明年中蓮如に歸依し六字の名號を乞

受け居宅を道場とせん後寺號とせん

○皮田

村領あり家數三十六軒人數百七十一人

下野口村に家八町ありて村居相接す

村に社あり

表行

境内周五町





上野口村

迦美乃具智

内一〇二八〇號

田畑高 下野口村ニ合セ出セリ

家數 同十七軒

人數 同七十四人

下野口村北東八町ニ何リ々々村居相接リ

○春日社 境内周六十六間

本社尺方六 長床

○村中子何リ 長上具用石人箇物計出

上野口村



○法林寺 浄土真宗西派 蘭御坊附

村中 本堂 鐘樓 等 あり

○薬師堂

下野口村  
堀 あり

不詳 口 林 九 束 八 十 五 丁 丁 林 五 十 丁 八

人 燈 同

者 燈 同

田 畝 高 不 詳 口 林 五 合 丁 出 丁

工 種 口 林

由 也

熊野村

由也

田畑高 四百八十八石八斗四升

家数 五十七軒

人数 二百七十四人

下野口村の南十一町あり 村居熊野権現の  
宮山を中より南谷北谷の名あり 村名も亦  
権現より出たり

○熊野権現社

熊野村



○ 本山社

長床

一御前社

中申社といふ

大和御前社

三社一境内ありて各区域となせり

境内宮山

東西百九十一間  
南北百四十五間

禁殺生

大宮

長床

境内宮山周百十七間

禁殺生

右四社合せてこれを熊野權現といふ南谷に

ありて一村の産土神なり古ハ十二社あり

○ を後世四社に合祀す且四社境内相連なり

小炎焼に罹りて後大宮獨區域分離すといふ

社家の傳は往古社は壯麗な神領も多く祭禮

も神輿や壽郡田邊に渡御を何の頃より其

事廢して今は十一月初申日大宮祭翌西日本

山祭も多く神主禰直五人馬上より鋒五本を立

て川上莊入野村大山權現に渡御あり其日大

和御前あり神樂あり中申日一御前あり祭あり

是當時祭禮は式なり祭祀の時は神樂歌を



傳へきり當社并小川上莊の大山權現ハ疱瘡  
守護の神ありて有徳大君藩よりせら  
れしき疱瘡を病せられ兩社へ御立願可  
き神田各十二石はくを寄附し給ふ享保中  
あり境内殺生を禁せし社殿御造營あり享  
和三年古の社地分斷せし地より村民  
一寸餘の白玉二鏡二面大刀長刀器物等を堀  
出したるごとくあり神主ハ中村右膳といふ

○西福寺

西陽山

浄土宗鎮西派富安莊小松原村九品寺末

北谷にあり



岩内村

伊波宇智

田畑高 四百十石五斗八合

家数 七十四軒

人数 三百十五人

熊野村の西十三町あり古の地形を考ふる  
此地日高川海口に近く一小灣曲れ入江な  
らん今村中の田畑を掘きは一丈二丈も下に  
埋木多くありといふ岩内ハ巖多き灣曲の地

岩内村



此義なり

○也久志波王子社

境内周三十四間

村中より岩内王子を祀るといふ岩内王子  
左御幸記に出たり此地河流變遷し岩内王子  
此社地滅没して後世小社を此に建るといふ

○春日社

境内周四町四十二間

本社 拜殿

村中より古ハ大社よして免田もありといふ  
境内大社の形あり

○明鏡寺

淨土真宗西派蘭御坊附

村中より此地舊ハ吉程寺といふ真言宗の  
寺なりしを永正八年村中此の淨土真宗を  
歸依し寺跡を改め改宗といふ

○古道

村領より今往還する巽岩内より山を起え  
て北塩屋王子社の側に出つ海を小栗街道と  
いふ御幸記超山參塩屋王子といふ即此道なり







村居川の東にありて塩屋浦と接せし元和  
六年の洪水は一村漂没し日高川筋となりし  
よも後新の今の地は村居し宮遂又塩屋浦と  
川を隔てて莊中ありて一村川の西にあり  
るなり今海口の邊に切戸といふ小名あり村  
居海口又ありハ屢洪水の厄あり

○紀道明神社

境内周四十四間

本社 末社 大海神

山 鋒殿 神樂舎

村中にありて當村舊ハ森岡村の武塔天神社の  
氏下なりしに元和六年洪水は川上莊三百瀬  
村の紀道社流れて此地の松樹のりれるを  
三百瀬に還し祀りしに其後の洪水はとき又  
社漂流して再以前の松樹のりれり村民不  
思議の思ひとなり湯を上りて此地に鎮座し  
て海船の出入を守りしと託宣ありしより  
本社ハ三百瀬村に還し別ニ此地に勸請して  
船付明神と崇め産土神とせしむる



○源行寺 浄土真宗西派 菌御坊附

村中よりあり鐘樓あり文明中湯川の一族左衛門次郎といふ者の建立といふ

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

北塩屋浦

幾多志保也

田畑高 二百二十二石三斗六升一合

家数 三百六軒

人数 千百四十七人

名屋浦の南よりあり日高川を隔てて相對し熊野往還なり舊より南塩屋浦と一村なりむ塩屋より古ハ塩を焼きし所なり後世日高川海口變遷して其事絶えたりと見ゆ道成寺縁起あり

北塩屋浦



塩屋ありて塩を焼きしして見えたり新古今集  
小徳大寺左大臣實能公の白河院熊野  
御幸此時御供り亭立の所も塩屋の煙此歌百  
子靈異記曰日高郡之潮とあり其地詳ならん  
今按す亦小潮古書美奈土と訓せり靈異記の  
文ありしと其地日高川の海口と見ゆきは潮あり  
此邊此事なりん其文左に載次  
靈異記曰長男紀臣馬養者紀伊國安禰郡吉備  
郷人也小男中臣連祖父麻呂者同國海部郡濱

中郷人也紀萬侶朝臣居住於同國日高郡之潮  
結網捕魚馬養祖父九二人傭賃而受年價從萬  
侶朝臣晝夜不論苦行駛使引網捕魚白  
璧天皇世寶龜六年乙卯夏六月六日卒吹強風  
降暴雨潮漲大水流出雜水萬侶朝臣遣千駛使  
取於流水木長男小男取水編椽乘於同椽拒逆而  
往水甚荒忽絕繩解椽過潮入海二人各得一木  
以乘漂流於海二人無知稱誦南無無量難令  
解脫釋迦牟尼佛哭叫不息其小男者運之五日



其日夕時淡路國南西田町野浦燒塩之人住處僅  
依泊也長男馬養後六日寅卯時同處依泊也國  
司聞見之悲賑給糧小子歎曰從殺生人受苦無  
量我亦還到彼又駟使猶聿不止殺生之業留淡  
路國國分寺從其寺僧長男送之二月歸來本土  
妻子見之面目澀青驚恠之言入海溺死送七々  
日而為齋食報恩既畢不思之外何活還來云云

○美人王子社

境内除地

本社方一 末社全比羅社 船玉社 武塔神社 稻荷社

長床

村中にあり御幸記に參塩屋王子此邊又勝地  
有被とあり即此社なり今境内に御所芝とい  
ふ所あり 後鳥羽院此行在所の跡とい  
ふ又大塔宮熊野に潜行し給ひしに此所を  
一宿し給ふといふ今碑石を建つ碑文下に

録次

十載集

白河法皇熊野へ海を色信にけ致す供へて塩屋に  
王子の御前より人々歌よみ侍りけ給ふ

後二條内大臣



馬小車之みくかなるは能くは塩屋の跡をたずなりけり

新古今集

白河院能つ跡にありて跡にまけ給ふ所供の人々  
塩屋に王子に之を歌よみ侍りり

法大寺左大臣

立のほろ塩屋にたより浦風をたむくを神のふりかれ

鹽屋王子祠記

鹽屋村在日高川之海口昔時煮鹽為業焉因名今  
村分南北其在北者山岡東來西北臨日高川山  
岡登纒數十磴上平坦而樹木鬱蒼神廟在焉稱

鹽屋王子一稱美人王子美人稱古無所見不知

其所起祠在山岡可以遠眺望故聖駕幸於

熊野每為駐驛之處白河法皇之幸使公

卿賦和歌於祠前建仁元年後鳥羽帝之

幸御幸記所謂此處亦勝地是也自後至弘安四

年駕於茲者數帝矣元弘之亂大塔

王避難遁于熊野亦投宿于此蓋聖駕駐驛

之後屋宇猶存也今也屋宇皆廢而草樹蒙密之

中遺址獨在焉故土人呼曰御所芝芝謂結縷也



其地形東連山巒西臨海畔淡阿諸山隱々半蒼  
波杳渺之中其北則衆嶺回擁如半環蒼翠凌虛  
遷迤西走其間一大海灣若開鏡面此古之地形  
也數百年之久砂土填海川流亦移海灣變而沃  
野數里村落鱗集田疇區分閭廓遠大掩曖於雲  
烟之中而翠松一黛彌漫半海畔數里之間山容  
水態四時極其濃媚花晨月夕千歲同其奇觀誠  
可謂一郡絕境矣嗟乎人之居世老幼異思貴賤  
分趣觀物之情固不能同登茲岡也

數帝

一王游豫蹈躋之蹤依然猶存焉則豈得無意哉  
將追聖駕欣賞之跡縱其心目魂飛神怡朗  
誦微吟樂而忘歸耶將吊帝子於遺跡欽其英風  
氣烈流涕歔歔猶有餘慨耶又將下達觀古今一視  
萬類滄桑之變不入於心悲歡之跡不繫於懷子  
々焉洋洋焉以遊思於物表耶樹碑勒文後之觀  
者其有所擇焉

天保四年癸巳九月

仁井田好古撰



○里神社

社地周三十二間  
村中あり

○圓滿寺

浄土真宗西派菌御坊附

村中にある文明中岡本左近といふは蓮如  
と歸依し家を弃て、道場とすといふ本堂間  
鐘樓等あり

○熊野川

源名岩内莊熊野村より出て當村より海に入  
流

○王子川

源名明神川村より出て當村より海に入る

○狼煙所

村の良蟹田山といふあり

○浦口番所

○鍋倉山城跡

村の東より鍋倉井原左衛門の城といふ其  
傳詳なり

○地士

山田喜兵衛



天田村

阿麻駄 北塩屋浦放郷

田畑高 二百七石四斗二升六合

家数 水村子籠きり

人数 同

○北塩屋浦の良十二町子阿多村の名義詳なり

以りは海士田比義なり

○峠権現社

境内岡周九十六間

村の赤の方胡瓜坂子阿り境内子原用助墓阿

天田村



又事八川上莊三百瀨村の條に記す

○小祠二社

西氏神社

社地周  
二十間

東氏神社

社地  
除地

○極樂寺

清能山

淨土宗鎮西派富安莊小松原村九品寺末

村中にあり

○舊家

地士

荊木嘉一郎

其祖六郎左衛門藤原孝之應仁の頃高家莊荊木村に在住し世々富山氏に屬し軍功ありて天富山尚順湯川光春の感状を傳へたり享保中

地士子

命せらる古文書部  
に出せり

○地士

中村善次兵衛



猪野々村

韋能乃 北塩屋浦枝郷

田畑高 百六十二石八斗四升二合

家數 本村ノ籠

人数 同

本村の東二十一所王子川筋ノ河見村ニ今  
シ猪野々中村也

○法泉寺 王光山 浄土宗鎮西派富安莊小松原村九品寺末

中村ノ河見 元和申建立其境内小薬師堂あり

猪野々村



中林下...  
 本村の東...  
 入塔...  
 香塔...  
 田畝高...  
 計...

南塩屋浦

美奈美志係也

田畑高 五百三石三斗六升八合

家數 百七十一軒

人數 七百九十九人

北塩屋浦の南王子川を隔て、相對に村居小  
 名二所を南出濱出といふ又海濱に尾崎とい  
 ふ小名あり又鰐島といふ岩海中にあり  
 ○小祠三社

南塩屋村



○大將軍社

社地周十間南出  
小町長床あり

鷲堂明神社

社地周三間南出  
北南端あり

衣美須社

社地周六間村の  
申酉北方あり

○光明寺

浄土宗鎮西派富安莊小松原村九品寺末

南出の南端あり本堂

方五

僧坊あり

○光專寺

浄土真宗西派菌御坊附

南出にあり本堂

方五

僧坊鐘樓あり

○城蹟

村の東丸山とい  
ふ岡山あり

○鷲嶺狼煙所

村の巽三  
町あり

○地土

美濃

平井野右衛門

森岡村

毛利遠辺

南塩屋浦枝郷

田畑高

三百四十二石一斗九升一合

家数

三十九軒

人数

百六十四人

本村の東十町あり村中上岡下岡といふ小  
名あり

○武塔天神社

境内周三百四十間

本社

表行一  
丈二尺

御集舎

長床

森岡村



森岡村

上岡

社僧別當 神宮寺

上岡より明神川南谷南北塩屋天田猪野々  
森岡七箇村に産土神なり 祭禮正月十日其祭  
を御當といふ七村あり 毎村より十五歳以下に  
男子一人を出し 祭式をなす 其當より一と此を  
一年前より別大すといふ南塩屋の濱に權現  
磯といふ所を天神勸請のとき影向の地とい  
ふ古き祭文あり 其文よりれり 天満天神武塔  
天神藏王權現の三座を祀れるなり

産土神に側より真言宗古義名草郡下宮郷  
紀三井寺末なり

○里神社 方丈社地周百七十間上岡

○西福寺 淨土宗鎮西派富安莊小松原村九品寺末

上岡より



南谷村

美奈美堅爾

田畑高

三百八十三石五斗七升八合

家數

六十軒

人數

二百七十三人

○森岡村の東二十二町、町村中、子作木尻掛

○中岡峠岡切山等、北小名、町切山の中、子皮田

町

○小祠二社

南谷村



○氏神社

社地周四十六間中岡あり祀神木像あり

龍王社

社地周二十八間  
峠岡あり

○明應寺

淨土真宗西派園御坊附

中岡あり

○善忠寺

淨土宗鎮西派富安莊小松原村九品寺末

中岡あり

○舊家

利大夫

先祖弓倉理大夫大塔宮北塩屋浦の御所は平

小暫坐しける時宮に屬れ古より當村を知行

以依りて近き頃より村中の者毎年十二月に

薪を送り又田植の時も其代をなすなりとい

ふ大莊屋を勤め地士に命せられし事あり



明神川村

美也字慈芸賀波

田畑高

三百十二石五斗二合

家數

七十二軒

人數

二百九十四人

南谷村の北三町小谷と隔々相對に村中小  
名二つに分り建蕨野石の谷といふ

○春日社

境内山林周四十六間

本社

方五尺  
二寸

拜殿



石谷子阿里

○住吉社

境内山林周三十間

本社 方五尺 二寸

拜殿

蕨野小阿里

○専光寺

浄土宗鎮西派富安莊小松原村九品寺末

石谷小阿里

門前山林

立石村

多天伊志

田畑高 百三十四石四斗

家數 二十軒

人數 七十六人

明神川村北長十三町西阿里之村居散在

○天神社

境内周百六十八間

村中以阿武塔天神を祀る堂以子拜殿阿里

○觀音堂

境内周八間  
村中阿里

立石村



〇 鱈番堂 計中ノ山ノ  
 〇 林東桂 計中ノ山ノ  
 〇 六幡林 計中ノ山ノ  
 〇 西嶺山 計中ノ山ノ  
 〇 事見崎 計中ノ山ノ  
 〇 石松 計中ノ山ノ  
 〇 田畠高 計中ノ山ノ  
 〇 志百林 計中ノ山ノ

志百林

志百林

野島村

乃志麻

〇 上野莊

〇 春日林

春日林

春日林

春日林

田畑高 三百八十五石五斗四升

家數 二百十二軒

人數 九百六十一人

南塩屋浦の南にあり村三に分り  
 南塩屋浦より南六町にありを被戸といふ被戸あり十

野島村



町に在るは本村より本村より四町に在るを  
加尾といふ皆熊野往還の海邊にあり村の  
西壁崎古ハ海上に突き出たる其形小島の如く  
なりしより島に名起せり

○小祠六社

稻荷社

社地山林周二十  
四間後戸あり

塞神社

社地周四十二間  
後戸あり

秋葉社

社地周四十間  
本村にあり

住吉社

社地山林周六十  
二間加尾にあり

春日社

社地周四十間  
本村にあり

衣比須社

社地周四間本村  
北濱にあり

○観音寺

浄土宗鎮西派上野村極樂寺末

本村にあり本堂間僧坊あり

○観音堂

被戸にあり西  
迎院あり

○専光院

修験者若山多門院支配

○本村にあり

○古塚

被戸に畑中にあり土人清姫の草履塚といふ  
石を建て標せり委くは道成寺縁起に見えら  
る

○十三塚



○草履塚の邊に塚十三あり五輪を建てたる十  
三塚とも山卧塚ともいふ傳へいふ出羽國羽  
黒山の山卧阿州の海賊を殺さしむと葬ると  
いふ又其邊に千人塚といふあり是其海賊を  
討込りし埋欠し處といふ

○壁河橋

○被戸と本村の堺に往還する所土橋なり土人

○或の叫の橋ともいふ

○狼煙所

南塩屋浦の堺鷺ヶ峰にあり

○野島

萬葉集紀温泉 行幸の時此歌に吾欲之野島  
波見世追底深伎阿古根能浦乃珠曾不拾とよ  
欠る歌あり此歌に野島を或は淡路の牟島の  
こととすれども 行幸の道路を思ふに恐ら  
くは此地ならむ然れども阿胡根の浦詳ならず  
次或書に此海邊を阿胡根といふよし見えたり  
きとも今土人の問ふに其名なし或は古名を



失ひしなりん

○  
○  
○  
○  
○

上野村

宇邊乃

田畑高 四百二十一石五斗七升一合

家数 百五十九軒

人数 六百六十九人

○野島村の巽十八町熊野往還の海濱より其地形を察するに上野の名實を得たり此地のこと續古今集に熊野子海より侍るる時上野よりよみ侍るる入道前太政大臣むのし

上野村



見し野原を里と成りけり數ふ民の程は志  
らぬと云ふ所も亦多き所なり今に至るは民  
家百餘軒あり曠野悉く田畑となれり

○若一王子社 方六尺  
二寸

境内周百間

村の東端往還の側あり御幸記に上野王子  
也野徑とあり是なり今の社地ハ海ノ面して野  
徑あり今此往還北東北畑中ノ道ありを  
小栗街道といふ道の側ニ佛井戸といふ所  
是王子の舊地ニ亭野徑といふ所當れり其社

中世回祿ありて廢絶せり寛文記に  
記せし其後更ニ此地ニ祭せりなり

○小祠二社

○梅田明神社

社地周八十間村の良あり  
梅田名地の字なり

○稻荷社

社地周十二間  
村の西あり

○極樂寺

淨土宗鎮西派富安莊小松原村九品寺末

○本堂

○藥師堂

○鐘樓堂

○村中あり

○佛井戸



古道の側ありあり上野王子の舊地なり井戸あり  
佛三尊あり是古の王子の本地佛を祀り回祿を  
罹りし時設けたるものなり近代此佛を  
立願するを祀り多くあり願満つるもの小き  
銅の鳥居を建て敷基あり

○高城山城跡

村の東三十町あり東西十八間南北十二間  
湊上野の居城といひ傳ふ村中堂の谷よりふ  
ま古墓一基ありを上野の墓といふ湯川十二

代記に湊上野ハ湯川直光の麾下より永祿五  
年畠山高政三好と合戦れ此れ河州教興寺に  
て討死にたり或るいふ天文二十三年湯川  
畠山合戦れと記當城を湯川家此岩なりとに  
和睦の記畠山家より渡り後畠山の屬臣山本  
掃部廣信當城を誓守りといふ湊上野ハ廣信  
より以許り居城せしなり

○地士二人

酒井次郎右衛門  
沼野次郎兵衛



楠井村

久須章

田畑高 二百二十九石九斗八合

家数 百七十二軒

人数 七百七十七人

○ 上野村の巽十一町あり往還より海邊の  
 ○ 岡子村居次村三つに分り是の上の岡中の岡  
 ○ 下北岡といふ村の名義詳なるは濱の中より廣野  
 ○ 崎といふあり

楠井村

○ 上野村の巽十一町あり往還より海邊の  
 ○ 岡子村居次村三つに分り是の上の岡中の岡  
 ○ 下北岡といふ村の名義詳なるは濱の中より廣野  
 ○ 崎といふあり



○小祠二社

春日社

社地周百二十間  
上の岡あり

衣比須社

社地周八間  
下の濱邊あり

○地藏寺

浄土宗鎮西派上野村極樂寺末

村中あり堂

方五間

僧坊等あり

○腰掛石

上の岡往還人家北前あり清姫の腰掛あり

石といふ少一凹あり

津井村

都章

田畑高 百十五石二斗六升三合

家數 三十三軒

人數 二百十七人

楠井村の巽十一町あり往還ありて海邊の村に村名御幸記に見ゆ其義解し加多し

○小祠二社

若宮

社地周五十二間  
村中あり

衣美須社

社地周十二間  
濱邊あり

津井村



○高泉寺

境内周六十六間

浄土宗鎮西派印南莊中村印定寺末

村中にあり

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like '村中', '浄土', '宗鎮', '西派', '印南', '莊中', '村印', '定寺', '末']*

印南莊 伊奈美 総六箇村

中村 印南浦分村

宇杉村 印南浦分村 小岩本郷

光川村 印南浦分村 小岩坂本

西山口村

東山口村

印南原村

切自莊 幾利免 総二十一箇村

西野地村 小岩本村 高垣

莊論



島田村

宮前村

古屋村

羽六村

古井村

下津川村

見影村

脇谷村

松原村

岩上津野

切矢田

小名長谷川

川口内田

大川

小名室川

小名才川元垣内

丹生村

上瀬川村

下瀬川村

崎原村

皆瀬川村

小原村

神野川村

田垣内村

高串村

莊論



上洞村  
川又村

印南切目兩莊総て二十七箇村東ハ南部山地西  
莊小接ハ西ハ上野莊ニ界ハ寒川川上兩莊  
ニ隣ニ南ハ海ニ瀕ス其廣袤東西ハ南北方  
一里半北の方あり六里南北二里此地ハ古の餘  
戸北地なほハ一餘戸和名鈔刺本全戸ハ  
部ハ殺目ノ字北画ハ御幸記ニ誤りハ  
稱一説小備ハ御幸記ニ誤りハ切部ト  
一説小備ハ御幸記ニ誤りハ切部ト

印南北名播磨國郡名多ク其地ハ印南浦  
と義なり古歌なり景行天皇ハ印南通音ナリ  
大郎姫ト申シ奉リ海邊北地ハ小海部  
比轉語ナリ印南モ皆海邊北地ハ小海部  
す海ナ海部切部南部ト北より南へ流ク  
名ノ例モ揃ヒて聞ケ切目ノ名義詳ナリ  
集ニ殺目山トあり御幸記ニ切部トあり二莊谷  
を異ニスモ其生産風俗大様一視ス  
南莊ハ中村宇杉光川三箇村切目莊あり西野  
地島田二箇村海口トありて熊野往還ナル家











居よ一ニ莊溪流莊中を貫きて流るきと谷小  
 小して船楫を通すゆゑ足ら次且廣濶此地  
 然きとも其地の出所大抵衣食に供を添ふ足  
 るを以て上流の諸村も大母貧なり凡山村の常  
 形よして窮村に姿なり印南本郷應永頃小山氏  
 地頭職となりしと小山氏 牟婁郡安宅 此文書  
 小見の其餘中世此邊の領主詳ならず次後世ハ皆  
 湯川氏の領地なり切目莊の中西野地宮前古屋  
 羽六古井下津川見影脇谷八箇村ハ田邊城子隸





次田邊左國郷安藤飛騨守の城下なる外北士大  
夫の采邑ハ其土税を食むのこなれども安藤  
望水野土佐守ハ其土税を食むのこなれども  
其人民を支配し其山林を領せり故よりれ  
比下兩家北領なる也  
此其由を書せり

○印南川

源右印南原村の北川上莊江川村北境に發し未  
此方に向ひ莊中を貫き流る事二里許中村光  
川村より海に入る

○切目川

源小川又村領山地莊境北高峯より發して脇谷

村より東より西に向ひて流る脇谷村より折  
て南向ひて西野地村に至りて海に入る川流  
て南部莊北西北より西野地より西野地より  
擁川又より西野地より西野地より西野地より  
最多く大小腸此形の如し故に川の長さを量  
時ハ路程より五里を加ふと以て



中村

奈迦 印南浦分村

田畑高

三百三十五石五斗四合六分

家数

二百十二軒

人数

七百四十四人

○上野莊津井村北東十二町熊野街道にあり村  
中小名二つに分ち地方濱方といふ中村宇杉  
光川三村舊一なり今猶三村を合せし印南  
浦といふ元禄十五年正月大火あり三村大半

中村



焼失に寶永四年十月大地震の時津浪より民  
戸盡漂没し死す者三百有餘人此二厄は係  
りて村中の故記舊物の類皆凶失也  
○叶王子社 方一間 五尺 境内周百間  
村の西端往還あり御幸記にツイの王子と  
あり此社なりし津井村古老の傳へる當社  
舊津井領より後印南に移りたりといふ

○小祠三社

中 衣比須社

社地周二十四間濱方より境内に行者堂あり

大將軍社

社地周十間 村内にあり

森宮

社地周十間村の北山よりあり富岡王子権現を祀るといふ

○一念寺

浄土真宗西派菌御坊附

村中地方より享保中寺跡なり

○印定寺

浄土宗鎮西派京知恩院末

本堂 方七間

觀音堂

鐘樓

僧坊

村の北より虜長中の開基といふ寺内に蘓鉄此大樹あり圍五尺餘高さ一丈五尺餘

○不動院

修驗者若山多門院支配

○濱方あり



○地藏堂

境内周六間  
濱方あり

○城跡

村の西北の山あり要害山といふ湯川右衛門大夫居城といひ傳ふ  
今畑となり其傍に湯川あり皆枕字のくまに山下に城下城に越射場等の字残あり

宇杉村

禹須嶽

印南浦分村

小名本郷

田畑高 百六十八石七斗八合二夕

家數 八十三軒

人數 三百人

中村の東川を隔て 相接り

○正八幡宮 境内周六十四間

本社三扉 表行一丈二尺

末社四社 牛頭天王社 稲荷社 住吉社 猿田彦社

宇杉村



御薬舎 長床

村の北より宇杉光川東山口三箇村の氏神  
なま神主あり

社僧 神宮寺

宮の側より真言宗古義印南原村瀧法寺末

○小祠二社

東宮 社地周四  
十二間 衣比須社 社地周二十二間  
本郷あり

○東光寺 薬玉  
浄土宗名草郡梶取村惣持寺末

本堂 方六  
間 薬師堂 鐘樓

村の東端あり

○御所平

往還より東三町より畑なり熊野 行幸頓  
宮の跡といふ



光川村

比迦留賀波 印南浦分村

田畑高 二百九十五石五斗六升四合二勺

家数 九十四軒

人数 三百五十一人

○ 宇杉村の南小川を隔てて相接次

○ 富王子社 境内周三十六間

○ 往還より所々御幸記よりいかるり王子と所々は是

なり 古歌に班鳩や富の小川といへる富いかるり共々大和國此地をなす此王子と富といひいかるりといふハ聖

光川村



徳太子なりと云ふ  
ありし事あり

○小祠二社

○衣比須社

社地周十四間  
坂本の濱あり

○大將軍社

社地周八十間  
光川の山あり

○観音寺

淨土宗西山派名草郡梶取村惣持寺末

○光川あり本堂

方五間 僧坊等あり

○西岸寺

南涼山 淨土宗西山派名草郡梶取村惣持寺末

○坂本あり本堂

方五間 観音堂僧坊等あり

○狼煙所

○浦口番所

西山口村

爾志也麻具智

田畑高 百六十六石三斗五升九合

家數 四十軒

人數 百九十八人

中村の北十五町あり東西山口村即南川を  
隔て相對し舊名一村なり今分きて二箇村  
となす各義字の如し谷中なり土地廣し

○正八幡宮

境内森山周四町五十八間

西山口村



○本社三扉表行二間三尺

末社四社稻荷社 猿田彦社 天字須女命社 住吉社

神樂舎 長床

村の北より中村西山口津井楠井上野野島等此氏神なり傳へいふ當社昔々野島村の枝井戸を鎮まを坐し大より當所を勸請次神主を岡本左近といふ

○牛頭天王社社地周三十四間 村中よりあり

○最初寺 境内周六十六間

浄土宗鎮西派中村印定寺末  
村の北よりあり薬師堂あり



東山口村

比賀志也麻具智

田畑高 三百二十二石一斗九合

家數 五十七軒

人數 二百四十九人

西山口村の東三町あり

○小祠二社

大歳明神社

社地周四十二間  
村北南あり

辨財天社

社地周二十八間  
村の乾あり

○仙光寺

浄土宗西山派宇杉村東光寺末

東山口村



○村中あり

○大森

○小森

○西

八

五

田

東山口村

印南原村

伊奈美海良

田畑高 九百五十二石九斗六合

家数 二百四十六軒

人数 千百四十一人

○東山口村の北二十六町あり村を廣くして

六つに分ち南ありを瀧の口といひ其北十

町ありを中越といひ其北十町ありを白

川といひ瀧の口北巽山を越えて十町枝谷小

印南原村



何ろを奈良井といひ中越の西八町枝谷子あ  
るを柳畑といひ其北九町子あるを南畑とい  
ふ

○大歳明神社 境内周八十四間

本社三扉 表行一  
丈子

祀神三座 大歳神  
御年神 大市姫命

末社四社 若宮八幡宮 楠明神社  
西御前社 竈明神社

長床

白川子あり一村の氏神なり

○稻荷社 社地森周三十間  
瀧北口あり

○瀧浜寺 南陽山 境内周五町三十八間

真言宗古義名草郡紀三井寺村紀三井寺末

○本堂 観音堂 鐘樓 庫裡

瀧の口あり外子山林一箇所あり

○正覺寺 溪林山 境内周九十一間

○浄土宗鎮西派富安莊小松原村九品寺末

中越の山あり 本堂間僧坊外子山林あり末



寺二箇寺村中あり

○地藏寺

境内周五十四間

○浄土宗鎮西派村中正覺寺末

○南畑あり

○法泉寺

境内周三十七間

浄土宗鎮西派村中正覺寺末

○白川あり

○専福寺

境内周七十一間

白川 浄土真宗西派園御坊附

柳畑あり本堂鐘樓等あり

○古城跡

中越あり東西二十五間南北四十六間昔當  
野の領主富田牛之助の居城といふ重編應仁  
記に富田牛之助が畠山高政の屬臣永祿五壬  
戌年北春三好亂の時飯盛の城攻に討死すと

あり  
牟婁郡芳養村目良氏此文書に  
富田氏とあり







西野地の名は島田村と川を隔て、西は  
 谷を以て呼び来り名あり、一は小谷二阿多水  
 村は村の南街道より高垣村は良切目川  
 北崖より又本村の領北内は皮田あり  
 ○五體王子社  
 境内方一町 禁殺生

本社祀神

大日靈貴尊  
 正武吾勝尊  
 瓊瓊杵尊  
 彦火火出見尊  
 鷓鴣草葦不合尊  
 辨財天社  
 牛頭天王  
 八幡宮  
 相殿  
 金毘羅社  
 大塔宮社

五座合殿

末社四社

神輿舎  
五間半  
二間

本村の西三町熊野街道より西野地島田宮  
 前古屋羽六五箇村に産土神あり熊野御幸記  
 一切部王子とあり是なり其全文ハ御所屋敷  
 此條より出たり平家物語より平惟盛熊野へ落る  
 時此社前より湯淺宗光小逢ひし事見えたり  
 五体王子の稱ハ神の御像五つありを以ていふ  
 或は地神五代なりを以て五代王子といふ代  
 体音近きを以て轉するなりといふ孰しは是



形事を知ら次祝家の傳へて神跡を覆天雨  
天雨宮何の義宮五体王子と稱はといふ覆  
なりり知らん後鳥羽院熊野御幸此御

時當社より歌の御會あり其時の御懐紙を神  
殿に納め給ふといふ天正十三年兵燹に罹り  
て社殿神寶の類悉焼亡以後禁廷に願ひ奉  
りて其寫を賜へりといふ今神殿に藏めり重寶  
と次天正兵火の後比丘尼ありて七箇月の間  
又社殿を再興にせといふ今の妙法山尼屋敷と  
いふ者今社地の前街道を隔其比丘尼の居り

所なりといふ或は神道者来りて七箇月此  
所を知ら間々再建し造營終りて往く  
りといふ南龍公寛文二年御戸帳香爐繪馬

等を寄附せしは神殿中修飾を加へらば又柳  
の木紅葉の木を境内に樹り給ふ今皆生木  
せし柳紅葉を當社に事小縁ありを以てなり  
太平記に大塔宮の事を載せし曰くは南  
都邊に御隠せりし叶のくちを則般若寺を  
御出所りて熊野の方へて落させ給ひる御  
供の衆より光林坊玄尊赤松律師則祐本寺の



相摸岡本三河坊武藏坊村上彦四郎院岡八郎  
矢田彦七平賀三郎かきおれ以上九人也宮を  
始め奉りて御供の者も皆柿の衣あはを  
掛け頭巾あは半小着其中二年長せ候と先達よ  
作あり立て田舎山仗の熊野參詣すあ休小を見  
せきくけり切目の王子あ着あ給あふ其夜あ叢  
祠の露あ御袖を片敷あてあ過夜あ祈あり申あさせ給  
ひけりあ南無歸命頂禮三所權現満山護法十  
萬あれ眷屬八萬の金剛童子あ聖跡和光の月明の

子分段同居の闇を照らし逆臣忽あとあひあり  
朝廷再あ耀あく事あを得あせあしめ給あへ傳あへ承ある兩所  
權現あ是伊弉諾伊弉丹の應作也我君其苗裔  
よあて今朝日忽あ浮雲あ此為あ隠あるれあ冥闇  
そり豈傷あよあんや玄鑒空あよあ似あきり神  
もあ神あたらは君あ盡あ君あたらあむあ五体あを地  
み投あけあ一心あ小誠あを致あしあ祈あり申あさせ給  
ひけり丹誠無二の御感應あなあらあらん  
と神慮あと暗あ計あられあ終夜あの禮拜あ御窮



屈有けきハ御肱を曲け枕とて暫御目眩  
有けり御夢ニ髮結ひたる童子一人来り熊野  
三山の間々尚も人此心不和より大義成り  
かたし是より十津河の方へ御渡り候ひし時  
此至らんを御待候へりし兩所權現より案内  
者ニ附け進らせられて候へり御道指南仕り  
べくと申は御覽せられ御夢を則覺りたり  
是權現北御告也 ありとたのしく思召され  
けきハ未明ニ御悦の奉幣を捧け頓て十津川

を尋ねて其分け入らせ給ひたり其道の程三  
十餘里の間々絶えたり人里もなかりありきは  
或ハ高峯此雲を枕を歌て苔此筵を袖を敷り  
或ハ岩漏る水に渴を忍んで朽たる橋に肝を  
消き山路本より雨なくして空翠常に衣を濕  
りて向上より萬仞の青壁刀に削り直下を千  
丈の碧潭藍に染めり数日の間斯く嶮難を経  
たり給へり御身も草臥たり流る汗も水  
此如く御足に欵け損へり草鞋皆血に染せり



御供の人々も皆其身鉄石に非ずは皆飢疲之  
るそあゝ敷も歩得るりけり共御腰を推し御  
手を挽きし路の程十三日十津川へ着せ  
給ひけりと阿母親王熊野の方又往りて給え  
此所より東北の方子轉して大和國十津川  
に至らせ給へり大塔宮切目王子より十津川  
所々といひ傳ふる所あり然れども其説一定せり往  
々舊跡と唱ふる所あり唯切目莊より何れも迂回  
小くして便利此地より非ず唯切目莊よりいひ傳  
かる所其實を得たりといふ今爰又録し  
親王切目王子此夢の告を蒙らせ給ひて道  
南の方熊野より趣りて給ふ事を止し給ひて道

を東北の方より轉し直り切目川より傍いに登り  
よき山地莊に至らせ給ひ此より十津川に至  
らせ給ふ太平記に載る所と相合ふ其地を  
敷ふきは切目莊より西野地宮前羽六古井  
下津川脇谷松原丹生崎原皆瀬川小原田垣内  
高串上洞の十四箇村を經て山地莊柳瀬安井  
東村丹生川四村を歴て大和國十津川上湯川  
村より大和國玉置山を踰えて北山莊の地  
に至らせ給ふ是溪谷の中此順路を切目莊  
上洞の諸村并ひ小古井下津川見影脇谷の村  
々往還の道筋より依家々正月の餅を擣く事  
なり元日小々寒食を依と例より傳へいふ昔  
時大塔宮此地を通らせ給ひ二月大晦  
日なすしに里人より餅を御所望しに里人  
供給を厭ふ者ありて餅を擣けり候と申せ  
是より後正月餅を擣けり必崇り候と申せ  
今日至りて正月の餅を擣けり必崇り候と申せ  
今日至りて正月の餅を擣けり必崇り候と申せ



食事等皆此時の風俗なりといふ又下  
津川村の薬師堂にて御滞留ありといひ傳  
ふ又十津川へ越ゆる所の山峯に安堵が森と  
いふ高嶺あり親王此所を越えさせ給ふ時事  
なり此より安堵せよとのたまへ侍り其  
峯を安堵の峯と名つくといふ今丹生川村よ  
り十津川へ往く其峯に麓を歴て至るべし  
古道と少し異なり所ありや詳なりこれ親  
王經歷の事此風俗の碑に殘る親王かく靈驗  
所あり其事の確證とせし親王かく靈驗  
を蒙らせ給ひしより後人神徳を崇め親王を  
景仰して社殿の東太鼓屋敷と唱ふる所より小祠  
を造りて大塔宮社と祀り近年安藤家より  
命じて本社側の遷し新に修營あり且碑を

建し其事蹟を表し碑文左の如し

切部神祠碑記

古者聖駕幸於熊野其駐驛之處必設禮神場  
或新建焉或仍其舊焉稱曰某王子其敷極多故  
世有九十九王子稱切部王子蓋其一也又稱五  
體王子祀地神五代其神像五軀故稱  
鳥羽帝幸於熊野會群臣於祠前以賦和歌元弘  
之亂大塔王避賊潛行於熊野夜間在祠中祈  
禳秘祝最致愀歎假寐之間神告曰熊野之徒惟



利是視奈何自入囊中也不若往十津川王覺  
感悟輒取途於東至十津川竄伏於虎狼之窟艱  
楚千萬然後能收恢復之功矣玄惠記粗載其事  
不詳其道途所由後之傳者往往乖戾邑人相傳  
循切部川而東行踰山地莊而達十津川時屬歲  
杪家家作饗以供歲首王欲之使左右求焉土  
人不知辭以無之後知其為王而悔且怖焉自  
後歲首不作饗為俗至今猶然此言信矣邑父老  
孺慕王之深嘗祠而祀之在王子祠傍後遷王

子祠於其西北王祠猶在故處邑屬千田邊城  
管內城主安藤君飛丹齡在舞象聞王之英風  
義烈慨然曰吾邑老猶知感王之義況於君子  
大夫乎遂遷祠於王子傍修而新之規制加於舊  
數倍其恭且嚴於是備矣既成俾好古書其事以  
勒廟石吁嗟保元以還王室如寄至千元弘版蕩  
極矣後醍醐帝之復祚雖出於群雄馳騁  
之功而義戈乘風雲集電發其濟之易且速未嘗  
不由王之偉勳盛烈矣握乾綱以臨兆民收威



福以御海内實千歲之一時也及巨猾乘讒孽  
竊內天地為此崩壞矣舉天下億兆之人不能脫  
王於鋒刃之下王死而帝業墜矣何其悲哉雖  
然王之雄心英魄豈與衆物同腐散哉此地雖  
僻遠亦其馨歎所存祠而祀之千歲猶如在雖出  
於邑人之意亦安知非五神之微旨焉哉然則今  
之遷而新之所以奉神意而稱衆望焉耀威靈於  
萬世以庇我邦人祈禳必昭答者將於是乎在矣  
嗚呼休哉

天保七年歲在丙申夏五月

從五位下安藤飛驒守藤原朝臣直承題額

仁井田好古 謹撰供書

神主

津村氏

其祖名甲斐源氏津村權六信政といふ尊氏  
仕軍功ありて江州ありて所領を賜ふ後永祿  
八年故ありて浪人となり熊野に來り途中日  
高郡原谷村より猪來りて飛掛りて刀を杖



きて斬留めたり湯川彌右郎狩場より此体を  
見て感賞し留めて祿若干を與ふ是より湯川  
氏より仕ふ天正十四年湯川を共より和州郡山に  
討死せ其子信助六歳にて切日本村より養  
ふ後五体王子此神職となり今日至るとい  
ふ

○有馬皇子社

或人熊野紀行に載れ其地今詳ならず以下文に  
載れ小祠三社の内なりしを土人其傳を失ひ

○小祠三社

辨財天社

大畑子  
阿見

王權現社

高垣子  
阿見

衣美須社

海濱子  
阿見

○西蓮寺

清涼山

淨土宗鎮西沓京智恩院末

本堂

藥師堂

僧坊

鐘樓

本村の中より舊より禪宗なりしに慶長以後  
改宗なりといふ

○御所屋敷

此の屋敷は...



○五體王子の社地の長四十間許あり

後鳥羽院熊野 御幸の御假殿北舊址といふ

熊野御幸記に曰參切部王子入宿所寂狭少海人平屋也

御所前也但國右宛云々小時御幸入御歩晚景

又有題即書之持參成時許如例被召入讀上了

退出暮無極品 蕪中聞波野徑月明

うちを福とゆやみ波のよふ此急多れを望風

○於此宿所塩垢離カリ眺望海非甚兩者可有興

所也病氣不快寒風吹枕と見えたり

○大鼓屋敷

古五體王子の神樂殿の舊址といふ御所屋敷

北側は所を今畑と名る右二所皆古五體王子

の境内の地を起し

○妙法山尼屋敷

五體王子社地の南小高き所あり古伽藍の

舊址といふ古五體王子の別當寺甘んじの寺

より又王子社再建の尼住し跡といふ

ふ



○八千貫城跡

本村の北三町許畑中又あり東西四十八間南  
北二十間許津村式部大輔の城跡といふ津村  
氏も五躰王子の神主の先祖といふ

○赤松城跡

本村の北一里十二町許山峯より東西二十  
二間南北十間城主詳ならず土人相傳へて赤  
松入道の城跡なりといふ

○舊家

宮井万吉

園莊御坊村宮井万平の分家なり万平の祖万

吉郎重定の弟重政宮井太次兵衛といふ或ハ

の次男當村より移り領主より代々地士大莊屋

といふ

○地士三人

腰前佐源次

澤井五郎兵衛

勝本万右衛門

○皮田

本村の領より寺あり善福寺といふ洋土真



宗西派蘭莊御坊村三寶寺末なり家數十六軒  
人數百八十人

島田村

志麻駈

田畑高 五百五十八石一斗二升一合  
家數 二百三軒  
人數 九百十六人

西野地村の小名本村モト北巽より島田切目川を  
隔る相對は熊野往還なり島田の名川北海  
口より島田の形をかせるより起る村居六  
つ子分を往還にあるを島田中山橋谷とい

島田村



ふ名杭楠木を島田の東にありて谷を別ふ  
島田の南海濱にありて崎山といふ

○中山王子社

境内周五十六間

本村榎峠といふありて長床あり御幸記に起  
山參切部中山王子とあり是れり舊ハ今の社  
地より八町許東中山の内にあはる今其地を王  
子の谷といふ

○小祠二社

衣比須社

社地周十八間本村の内  
菜屋といふ濱にあり

牛頭天王社

社地周四十八間名杭にあり  
社方六尺二寸長床あり

○光明寺 湯山

境内周八十間

浄土宗鎮西派京知恩院末

本村にありて本堂

方五間

観音堂鐘樓等あり

○延命院

修験者若山多門院般若院支配

中山にありて行者堂あり

○城跡三箇所

榎本城といふは中山王子の側にありて出城といふは其三町許外にあり地頭ありて若地の



跡を依へり又古井の塚に城跡とのいふ所  
あり

○舊家

當家を藤原姓字都宮和泉守恭景の後世字  
都宮太郎左衛門尉道綱足利將軍義植に從ひ  
て淡州より渡り後阿州宮井村に引籠り此より  
宮井を以て苗字とす其子太郎左衛門尉道貞  
富山氏に屬し政國の紀州に來れる時隨從し  
て宮原に住む道貞江州の淺井氏の子を養子

とす道祐といふ道祐の養母は湯川直光の  
娘なり其子善助祐綱といふ大坂に籠城して  
落城の後在田郡に歸るを浪人となす 南龍  
公の時六十人地士に命せらば祐綱の四男  
を六之丞有綱といふ所れ當村宮井氏の祖と  
す此地に來り新田を開き住む代々地士なるを



宮前村

美也乃麻邊 小名上津野 切矢田

田畑高 三百八石三斗五升六合七夕

家數 三十九軒

人數 二百五十四人

○西野地村の良二十二町餘は所は大川に添ひ  
て村居凡村の良古屋村は八幡宮あり其宮北  
○前の義抄所へし本村の北十一町は所を小  
名上津野といふ其良三町餘は所を小名切

宮前村



矢田といふ

○森明神社

境内森周四十八間  
上津野といふ

○慶雲寺

放光山  
淨土宗西山派名草郡梶取村惣持寺末

上津野といふ本堂

方五

鐘樓僧坊といふ

○薬師堂

右屋村

布留也

田畑高

百五十一石四斗八升七合

家数

二十八軒

人数

百九人

宮前村の良六町半といふ大川の東北谷子村  
居住名義詳かたは或ハ古屋コヤ小屋コヤ木屋コヤ等  
此義より後ハ文字より唱へ轉せしならん

古屋村



○新八幡宮

境内山周十二町

本社三扉

表行  
五間

末社二社

拜殿

神樂舎

薬師堂

村の東島田村塚より島田西野地宮前羽六  
古屋五箇村の産土神を傳へいふ昔東岩代  
村の八幡宮を西野地村の丸山より勸請し夫より  
佛谷より移し明應四年當山より遷座といふ

神主

水野伊大夫

羽六村

波呂久

小名長谷川

川口

字々内田 字々大川

田畑高 二百三十石三斗九升九合

家数 三十九軒

人数 三百九十三人

宮前村の長十三町半より村の名義詳し  
此村領廣くいふ小名四箇所あり本村の東六  
町許よりありを長谷川といふ其長五町切目川  
北東よりありを川口といふ其北七町半あり

羽六村



大川といふ皆切目川に添ひて家居せり川  
口の東五町餘瀬川谷にありを内田といふ

○大將軍社

社地周二十四間  
長谷川にあり

○地藏堂

境内周十間同所西光寺といふ所  
にあり慶寺に殘れり

古井村

布留章 小名室川

田畑高 三百八十一石八斗八合

家數 四十一軒

人數 四百八十五人

羽六村の小名大川の北にあり切目川に添ひ  
村名古き堰溝の義なり西に印南莊印南  
原村と山を境とし小名室川本村の東六町餘の  
谷にあり

古井村



○小祠二社

住吉社

社地周百二十間  
社方面尺六寸

岩神明神社

社地周百間共ニ村中ニ  
ありて一村の氏神なり

○永福寺

東明山

真言宗古義高野山一乘院末

村の北北端あり本堂鐘樓堂僧坊あり

○經塚

村中にあり白真上人といふもの法華經を埋  
みし所といふ塚の上子古松あり

下津川村

志毛都賀波

田畑高

百四十九石二斗三升五合

家數

二十四軒

人數

八十八人

古井村の北五町あり川を隔て見影村  
と相對し西に印南莊印南原村と山を堺と  
下津川の名義詳し

○藥師堂

村中の山手あり  
東光庵といふ

下津川村



○百王子塚

村中平山の上より傳へいふ大塔宮十津川  
落の時従者一人爰に死す其人を埋め乃ち塚  
なり塚の内は石にて疊を築きよりいへる往  
年此塚を掘りしもの所を崇めりしといふ

見影村

美迦解

田畑高 九十六石三斗七升

家数 十軒

人数 六十七人

下津川村の東北四町許より河川を境として相  
接し名義詳し

○大將軍社

社地森周百間村中より  
表行四尺二寸

見影村



脇谷村

倭幾乃多爾

小名才川

元垣内

田畑高

百六十五石六斗三升三合

家數

三十四軒

人數

百十五人

見影村の子丑北方六町半あり村中子定の谷といふあり按中らに定ハ狭々の義を狭小なりといふなり村名を此谷よる起る切目川此脇あり谷の義なり小名才川本村の西

脇谷村



四町許の谷子ありて印南、莊印南原村と堺凡  
大川の枝谷なりと名元垣内本村の良三町許  
ありて切目川と添と

○大將軍社 境内森周百間

元垣内子あり一村の氏神なり

○圓福寺 淨土宗西山派丹生村來迎寺末

村中子あり

○觀音堂 本川子

松原村

麻都婆良

田畑高 六十二石五斗七升六合

家數 二十九軒

人數 百三十人

脇谷村の東十八町子あり

○真壽明神社 境内山林周三町二十六間

本社 文天 末社 八幡宮 諏訪社 禰殿

村の端真壽山の尾續子あり脇谷松原丹生崎

松原村



原皆瀨川下津川神野川見影八箇村の産土神  
なり相傳ふ當社明神往古伊勢の丹生より齋  
子乘りて真妻峯より影向ありて峯を崇め祭  
儀故に氏下れりての齋を取らる事をせむと後  
世氏下事ありて社を各村より移し祀り當  
社を八箇村の氏神となれり山野即南原川又  
田垣内樺川皆別々社を建つ當社を此地より祭  
りたりめ神田といふ地より輿を駐め遂に今此  
地より祠を建しとを今も神田といふ地六畝許

此所不淨を禁し汚穢を入さばといふ今按す  
るに真妻ハ地名ありて真妻山江川の上流に  
ありて真妻明神也即丹生祝文に日高郡江川丹  
生忌杖刺給比とあり即此神なり一當社今  
松原村に祀りていへり土人皆丹生の真妻  
明神といふ又古稱の遺りていへん今按す  
小川上莊入野村に大山權現社あり入野ハ丹  
生野より即江川に近けり其地丹生の祝文  
にあり江川丹生より大山權現ハ即丹生明



神事係事明なり 後世氏下争ふ事ありて社を  
名村に移したりといふ傳へあれど真妻峯に  
移し祀る時兩所に遷し祀せらるるを疑へし其  
他川上庄山地庄切目庄村々を祀りしを右の  
兩社より勸請を係所せらるるし然らば松原村  
と入野村の兩社諸村の本宮を係事明なり猶  
入野村の條下を併せ考ふべし當社近世まで  
神宮寺あり丹生山久米寺といふ本尊を地藏  
なり寺廢せらる後地藏 丹生村來迎寺に移次

社に永正九年の祝文あり切目庄大山郷松原  
村云々とあり奥書に永正九年下旬於丹生山  
久米寺書寫畢右筆律師法眼重譽とあり

○毘沙門堂  
境内周十五間  
村中にあり



丹生村

爾布

田畑高 百二十六石六斗八升三合

家數 三十八軒

人數 百六十一人

松原村の巽六町子あり虜長檢地帳より丹生  
崎原村とあり虜安以來二箇村とな依丹生  
舊此邊此大谷なり丹生の事ハ松原村真毒明  
神の條に辨せり

丹生村



○小祠

昔村中に丹生左衛門といふ人あり淺野氏に  
從ひて安藝に移る其屋敷跡にあり楠大抵  
十二抱もありやいふ六十年前伐りし時崇  
あまゝ其株の側に社を建て其靈を祀るとい  
ふ

○來迎寺 燈明山

淨土宗西山派南部莊筋村超世寺末

境内周八十間

村中の山上にあり古名真言宗なり後に後淨

土宗となりて來迎寺と改むといふ今田地の

字に教善寺東庵なりといふあり是古の寺跡

なりし本堂方五間鐘樓僧坊等あり

○小堂一字

境内周二十二間  
村中にあり

○舊家

孫兵衛

先祖筑紫松浦黨なりといふ其裔川口孫三郎

といふもの畠山に仕へ没落の後當村に引籠

り百姓となり代々居住を



上標川村

迦美保久曾賀波

田畑高 三百四十九石五斗二升四合

家數 百十二軒

人數 四百七十六人

下村と相接し丹生村を去る事南一里許に  
有村中子入谷白子といふ小名あり

○上氏神社 祀神大神宮  
入谷子阿是

○圓教院 修驗者若山多門院支配

上標川村



○園地  
○土

○土

○林

○下

入燈 四百六十六人

宿燈 百十二種

一田畝高 三百四十九百五十年二月四日

土

下榎川村

志毛保久曾賀波

一田畑高 上榎川村に籠り

家數 同

人數 同

島田村の東北二里にあり上下に分きて二村  
一溪の中に何れ川の流す切目川に合流を下  
村に新田三階畑本柳曾等此小名あり村名保  
久曾ハ火草なり榎ハ説文に榎積柴燦之也と

下榎川村



阿多因<sub>マ</sub>火草<sub>ヒ</sub>此<sub>レ</sub>義<sub>ニ</sub>用<sub>フ</sub>

○真妻明神社 境内山林周二町六間

一本社 表行五尺一寸

末社四社 大神宮 八幡宮 春日社 稻荷社

柳曾<sub>ノ</sub>阿多<sub>ノ</sub>上下二箇村の産土神なり

○下氏神社

祀神不老御前

柳曾<sub>ノ</sub>阿多<sub>ノ</sub>村を草創する時より此神と以て

意ふ<sub>ニ</sub>真妻神ハ一庄の氏神なり<sub>ト</sub>當社ハ一

村の氏神なり

○淨土寺 懸鼓山 淨土宗西山派南部莊筋村超世寺末

○薬師堂 境内周十九間 柳曾<sub>ノ</sub>阿多



崎原村

左幾乃波良

田畑高 六十七石九斗五升六合

家數 三十二軒

人數 百十七人

丹生村の良十三町五反

○大神宮

社地山林周九十八間  
村端あり

○地藏堂

境内周十九間  
村中あり

崎原村



皆瀬川村

迎伊是賀波

田畑高 五十五石八斗二升五合

家數 二十一軒

人數 百一人

崎原村の東六町二町と本村の東七町二町と巖尾といふ小名あり當村慶長檢地帳に松原村の内なり慶安以來別々一村となり村名と峽間の迫に義なるべし

皆瀬川村



○住吉社

社地周八十間  
本村子有り

此社は古くより住吉の神を祀りて  
其の神代卷に於て住吉の神は  
高天原の東に在りて本村の東に在りて

入燈 百一人

唐燈 二十一棟

田畑高 五十五石八斗二升五合

習熟川村

小原村

古婆良

田畑高 六十九石一斗一升八合

家数 二十二軒

人数 百十九人

皆瀬川村の東十町子 阿多慶長檢地帳小左松  
原村の中がし 慶安以後別子一村となす

○住吉社 社地周七十二間  
村端子有り

小原村







○妙見社

社地周五十四間  
村の入口あり

○薬師堂

境内周三十間  
北入口あり

山林の南より北目川に合流する言持森あり此  
山林の北五間あり院に一谷あり

入港 百二十八

家数 三十二軒

田畑高 四十三町五斗五升九合

林

田垣内村

多乃賀伊登

田畑高 四十五石三斗四升九合

家数 十三軒

人数 五十六人

○小原村の寅北方十町あり慶長檢地帳より

○高串村の内なり慶安以來別より一村となり名

義字の如し

○真妻明神社 境内周二町半

田垣内村



○村中以以名當村及小原村高串村上洞村の小  
 名大垣内休場等の氏神あり永祿十二年小書  
 けり祭文あり大山郷田垣内とあり  
 ○觀音堂 境内周十二間  
 村中あり

人 五十六人  
 家 十三軒  
 田垣高 四十九石五斗三合

田垣内村

高串村 多加久志

田垣高 四十九石五斗三合  
 家數 二十四軒  
 人數 百十一人

○田垣内村北東十五町子あり串の義所に見ゆ  
 住吉社 社地周四十間小名中  
 頭といふ所あり

高串村



高串村

上洞村

迦暮良

○高串村の東二十五町あり小名は楠原布計  
の上漆垣内大垣内休場の名あり山上は洞阿  
○高串村の東二十五町あり小名は楠原布計  
の上漆垣内大垣内休場の名あり山上は洞阿

入燈 百十一人

宿燈 二十四棟

田畑高 四十九石五斗七合

田畑高 二百七石六斗五升七合

家數 五十五軒

人數 二百三十五人

○高串村の東二十五町あり小名は楠原布計  
の上漆垣内大垣内休場の名あり山上は洞阿  
○今田邊をの内八疊敷程あり村名是より起  
るを以て加美暮良の略語なり

上洞村



○四所明神社 社地周三町大垣内子所  
子丹生明神を祀り

○地藏堂 境内周二十間  
休場あり

高車林の東二十五町ありて  
の土築所ありて  
高車林の東二十五町ありて

人番 二百三十五人

石燈 五十五棟

田畑高 二百六十石六斗五升九合

川又村 迦波麻多

田畑高 百六十一石二斗八升九合

家數 五十八軒

人數 二百四十八人

○上洞村の東二十四町ありて村の民多山地庄  
甲斐野川小家熊野川等の村と山を境し南を南  
部庄神川村と山を境と北村の東より谷南北  
に分りて固りて川又の谷あり南を大又谷と

川又村



北を小森谷と以共々人家あり當村ハ切目  
川の源なきと云谷狭かゝ村居も所々あり  
次斐川北流源程川峯の村と山と對し南

○真妻明神社 六尺寺 七尺九寸 境内山周十二町

本社 拜殿

末社二社 大神宮 稻荷社

村の西よりあり當村及上洞村の小名柿原布計  
の上漆垣内等の氏神なり神主小川氏なり

○天神社 社地周八十間 村北東よりあり

○安養寺 境内周五十八間

淨土宗西山派丹生村來迎寺末

村中山北半腹あり

○觀音庵 境内周二十四間小森谷の中觀音谷あり

○辻堂 境内周八十間 村の西よりあり

○地士 川口友吉







紀伊續風土記卷之六十八

日高郡第六

岩代庄

伊波志呂

二箇村

西岩代村

東岩代村

南部庄

美奈辨

総二十八箇村

山内村

小名風浦目津

氣佐藤村

南道村

庄論

此合

蒲並善帆

藤野與一准

圖書

伊波志呂

書窓

栗本阜吉



北道村 キタミ 新田 ニシ 新町 ニシ

芝村 シバ 新田 ニシ 新屋敷 ニシ

埴田村 ハナ

南塚村 ミナ

吉田村 ヨシ

熊岡村 クマ

山田村 ヤマ

徳藏村 トク

筋村 スジ

谷口村 タニ

東本莊村 ヒガシ

小名 邊川 ヘノ 受領 ウケ

西本莊村 ニシ

瀧村 タキ 南部川 柳合村

高野村 タカ

熊瀬川村 クマ

土井村 ツツ

市井川村 イチ

平野村 ヒラ



島瀬村

南部川郷分村

小名穂手見

神野川村

同

水之川村

大川郷分村

輕井川村

同

下大橋村

同

大橋村

同

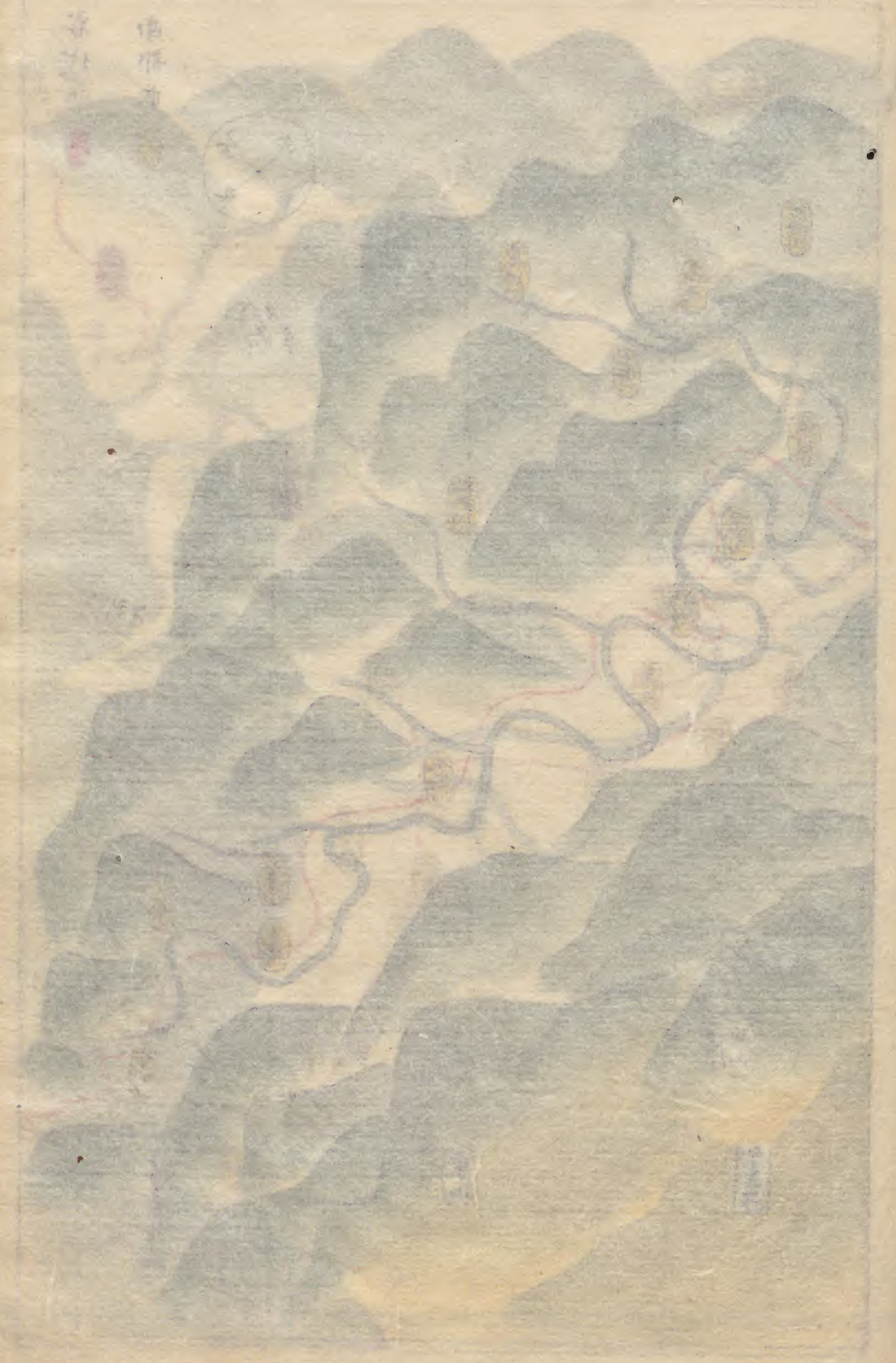
名之内村

同

岩代庄僅小二箇村南部庄総て二十八箇村岩代  
庄區域最小ありて僅に南部庄の西北の關くる

所を補いて土地大抵方形なり其八年婁郡秋津  
芳養の二庄と抱池乾と切目庄此庄の外を屈擁  
以正東八年婁郡東栖川郷及山地庄と接し坤の  
方海に瀕せし其廣袤東虎峯より西海に至りて  
六里南北熊野街道より二里半山中より三里半  
此地は古に南部郷の地なり南部の名萬葉集に  
三名部の浦とあり其名は古記事知海を一名義  
と考ふるより日高郡に内ありて最南よりありて  
稱を海をいひ古事記の開化御巻に御名部造と  
いふ姓見えありて書記欽明御巻より





附...  
 一...  
 二...  
 三...  
 四...  
 五...  
 六...  
 七...  
 八...  
 九...  
 十...











佐波、島、北御名部之崎  
岩代の名ハ萬葉集小磐代

こつり  
岩代村の南部の地古乃領主ハ詳るらん

後世よ至りてハ愛洲氏の領する所なり西本莊

村祇園御靈宮明德四年棟札小領主愛洲兵部大

輔源能俊と書く又應永三年の棟札ハ地頭愛洲

兵部太輔入道沙彌明禁と書く又永正十年の棟

札ハ地頭小野氏野邊彌六慶景とありてこと等

皆領主ありける龍村とあり上ハ後世よてハ龍神

氏の領と見ゆ岩代莊ハ元龜の頃地頭岩代右衛

門大夫源光倫といふあり東岩代村ハ龍村の地

山勢相迫りて形腰鼓の約如く龍とあり以上溪

流枝派多く村家亦従ひて是よ居る古ありと通

して二村小分つ上を大川村と下を南部川村

と況今ありと分り十三箇村と況此諸村山谷の

間ハありといふも大山高峯ありて以て材木

出さず唯薪木を出さず然とあり田畝や、多

く民耕稼を勸む所を以て衣食乏しからん風俗

淳朴なり東西本莊以下ハ地大小開き南部川を



引張て灌溉の故よ土田皆沃腴をて又濱海の諸  
村商賈多く海運を以て貨財を四方に通ずる故  
小富民多し其風俗人情都會を模する所  
ありて大小山中質朴の風と異なる

西岩代村の地味多し山脈ありて其地味多し  
山脈ありて其地味多し山脈ありて其地味多し  
山脈ありて其地味多し山脈ありて其地味多し  
山脈ありて其地味多し山脈ありて其地味多し

岩代庄

西岩代村

爾志伊波志呂

田畑高 五百五十九石五升六合

家數 百四十九軒

人數 五百十六人

切目庄島田村の東一里餘ありて村居三小分  
北小ありて戸中といふ中村といひ往還小  
ありて伏山と云ふ康永三年源義茂の文書あり



岩代莊西方内青木田參段伏山廣畠貳段名草  
郡和佐歡喜寺よ永く奇進と見え多し名草郡和佐

歡喜寺藏文書 岩代ハ海上よ岩多きよしと見え多し名草郡和佐

○八幡宮

境内周二百四十間

本社三社 中央五尺五寸 左右各三尺寸

神樂堂 拜殿

中村よ阿部一村の産土神あり東岩代の八幡宮を勧請といひ傳ふ

○岩代王子社

境内周四十八間

濱小阿部御幸記曰參中山王子次出演參磐代

王子此所爲御小養御所無入御此并殿板每度

被注御幸人數 中畧 自是又先陣過千里濱 此邊一町

許 參千里王子と阿部此文ふと見え磐代王子

社の側小御小養御所あり其處より千里濱と

過りて千里王子に詣て給ふなり今千里王

子と去る事西一町許東岩代村山内村の界海

よ臨みて御所原といふ小山あり此御小養御

所の跡あり然らば磐代王子も舊此邊小

阿部なる事今をの社地御所原と去る事七八



町々々々御幸記と符ハ以東岩代の濱山内と  
接する所ニ天神社何々疑ふらくハ磐代王子  
の舊地なるん此王子ニ参詣して板ニ姓名と  
書付る例とる何々々々新古今集より此事見  
え多々々々  
新古今集神祇

何々々々書付る例とる何々々々新古今集より此事見  
え多々々々  
新古今集神祇

岩代の神々々々々々

○ 里神小社

○ 光照寺

十界山  
攝取院

浄土宗西山派南部庄筋村超世寺末

○ 本堂

方五

○ 観音堂

○ 鐘樓

○ 僧坊

伏山ニ何々天正年間炎焼を其後宗春といふ  
僧の再興といふ近年東一位老公親筆の攝趣  
といふ二字ハ額字と賜ふ寺ニ多く奇石と藏  
む

○ 不動堂



○市谷山城跡

伏山より北十五町あり岩代兵庫頭の城跡といふ又村中より土井城といふ城跡あり兵庫の出城といふ兵庫の東岩代八幡宮の棟札あり岩代右衛門大夫の事あり

○磐代

濱 岸 尾上 森  
清水 井 結松 草根

○庄中の地といふあり

午婁郡田邊庄銘 山村の湯あり 行幸の御留守に有馬皇子の謀反露顯

皇子を捉へて温湯の地より送

とる歸路小皇子當所を過り給ひて松の枝と

結ひ誓願し給へば詠哥よと結松の名古今に

高

皇子誓願のせんふく藤白坂よて絞ら

或は祝賀の歌よハ後世和哥連歌緒流の題詠

又無名抄よ近來の人ハ石代と云ふ所のあり

とハあらてうせなる人の墓也結松といふハ

あましに哉へ多る木なると是は祝所よハ

の歌合に資仲の代いハ僻事たりとて承四年

是と難てうせたる人ハ歌と證としたり顯昭

とと有馬皇子の位よ法ま給ふへまきハあり

の起りと思へハ歌合よハ何とてあり或書

よいよめて多しとまきこえハ代といハ或書

よ人ハ墓よ生いたる松と岩代の松と云ふ



事ありといふて是又祝賀よまさるといふ  
説あるより偽造と云説よて取るよたらは  
又岡の草根と結ふといふ事あり  
齊明

天皇紀温泉 行幸の時中皇命の御歌よと始

よりし集万葉 今按るる尔當所にて松枝と結ふ

草根と結ふ事偶然に何ら以當地鎮座の神小

幸福を祈るに草木と結ふ事古傳を乞ふる所

魚一 中世熊野參詣詣の貴賤當所の王子社の并

殿此板小參詣の人数の名を記し例何是又

他の王子と異なる所ハ上古草木と結ひて神カ

誓ひし餘波也ハ何ら片取り猶考ふ魚一もて

被結松等の歌古来よ了此詠歌數百首何了悉

載と云に違何ら以万葉集の外を取捨して下

し載せ題詠ハ皆略せて當村此小名伏山の内

に結松といふ松何れ野中の清水何れ岡乃草

根何れ此外小辨の永水と云作例評るら此皆

後人名所景物の名を人よ知らせん爲し強ひ

て其物を儲るたるに古の眞面目も何ら以

此邊熊野街道ハ古と大よ變りし事あるは慥







見香聞

同七卷 事痛者 左右將為手石代之野邊之下草吾之刈而者

庵主 曾基法師 又丈木抄 熊野紀行

いそしるは中ふねは紙を何るやうに

石代のもも守とてといふを和しくおぼしむるは

新勅撰集

建長二年三月熊野に新清孝河原の町ありて

岩代の松よむしを思ひ出さ書付多ゆらふ

前太政大臣

年を過り又所はる者端を清く和む記一岩代乃すり

續古今集雜中

松のよむしを思ひ出さ書付多ゆらふ

ゆらふ

前中納言實家

岩代乃すり松のよむしを思ひ出さ書付多ゆらふ

新後撰集

法眼抄亦よむしを思ひ出さ書付多ゆらふ

大藏卿隆時

我神のまはるといふは岩代の神へのまはるといふ

新續古今集神祇

危の後松のよむしを思ひ出さ書付多ゆらふ







○地士

太地喜左衛門

東岩代村

比賀志伊波志呂

田畑高 四百三石九斗八升九合五夕

家數 百四十一軒

人數 七百四十二人

西岩代の東十四町より村居二町分と街道の上街道以下の名所

○八幡宮

境内周九十四間

本社三社

中央一間  
左右各三尺三寸



末社二社

并殿

村端にあり藤の森といふ一村の氏神なり祭  
禮八月十四日夜といひ元龜二年棟札に御地  
頭岩代右衛門大夫源光倫とあり其札今ハ紛  
失り村中地主といふ處あり右衛門大夫と  
今ハ絶る  
といふ

天神社

境内周五十二間

本社 四尺五寸  
四尺

并殿

濱ありあり永享十二年棟札の寫あり

大將軍社

村の北

光明寺

遍照山

浄土宗西山派南部莊筋村起世寺末

本堂

方五間

薬師堂

僧坊

村の北よりあり天正十三年炎焼其後教園と  
いふ浄土宗僧再興と

地藏堂

村中よりあり



〇 此庄東山麓門外之原也... 〇 此庄東山麓門外之原也... 〇 此庄東山麓門外之原也... 〇 此庄東山麓門外之原也... 〇 此庄東山麓門外之原也... 〇 此庄東山麓門外之原也... 〇 此庄東山麓門外之原也... 〇 此庄東山麓門外之原也... 〇 此庄東山麓門外之原也... 〇 此庄東山麓門外之原也...

南部庄

山内村

也麻宇智

小名

夙浦

目津

田畑高

五百六十二石六斗八合

家數

九十四軒

人數

三百八十四人

岩代庄東岩代村の東三十町に有る熊野街道  
 なる本村の西より片倉地藏峠等の小名あり弘  
 安年中高野山蓮華衆院に當村は田拾町を前

山内村



齋院より寄進せられたる車河を其後應永頃より此地高野領ありて見ゆ當村の土地低くして川原より流るる寶永四年乃大津浪より家残らば流失一年を経てや古より復してといふ山内の名は村は三面山よて包みたるとて起ると  
千里王子社 境内森山周四町

山末社一社

并殿

千里濱小所也御幸記小見えたる中世頽破に

及び一子万治年中南龍公獅子一對三具足

繪馬等を御寄附あり寛文四年并殿御建立あり

并殿

小祠六社

諏訪社 社地周八十六間 村の北より

八王子社 社地周二十四間 村の南より

愛宕社 社地周四十間 村の西より

衣比須社 社地周八間 目津より

衣比須社 社地周十一間 夙浦の濱より

稻荷社 社地周百間 村の北より 京都より勧請せ

并殿

新福寺

浄土宗西山派筋村起世寺末



○ 村の北より河を二百三十餘年前離伯と云ふ僧  
再建をといふ

○ 光顔寺 浄土真宗西派南道村勝専寺末

○ 夙浦 河を元禄十三年寺跡とあり

○ 火堂二字

○ 地藏堂 村の西峠より

行者堂 村の北より

○ 千里濱

本村の西十七町より河で土人字音より千里濱と  
はらりが濱とも云ふ東岩代村領の塚より目

津崎より大抵十二三町の間は海濱といふ此  
濱浪折際より終より四五町許河を熊野往還の  
古道なる伊勢物語よあの大將いそ人よた  
たりと給ふや官はるへはとめられたるか  
田や川有へき三條の川はとやきせし時きれ  
國の千里は濱より河を多流いとあはしり記石  
奉とてきみゆきれ後奉とてしるあるとさ  
らしの前の溝よき名たをしを島あのみ給ふ  
君ふりかた石とてすつらむとのよあて



とてよつゝつゝといふをみるなりて来ぬ此  
石きくよを公見るハ海さやたりと何ぞ増基  
の庵主よりりゝ濱又大鏡よ 花山院の  
修行せさせ給へる事と載せて熊野の道よ千  
里ハ濱といふ處より濱法らよ石ハ何所と御  
批よておほとのこかよさるよいと近々塩人  
の塩やく煙立ハほる云々夫木抄寂恵ノ歌よ  
未遠凡千里の濱又大平記ハ元弘元年七月三  
日ハ大地震ありて千里濱の遠于瀉俄よ陸地  
よなり事二十餘町と何ぞ是等の文よ因るよ  
此地古ハ遠于瀉るをいふを千里ハ濱の名起  
と海をらし按さるよ古ハ目津崎三十町許も  
海上小突出て夫よ岩代濱何よよよと廣  
き濱ありて一を經へて岩代ハ海上とて牟婁郡  
芳養浦よその間沓石といふ巖海底一面よ何  
ぞ其高きもハ海上處々ハ何らそ海此濱よ  
見ゆよ其巖の見ハよ 遠き處ハ二十町許何  
ぞ舊ハ出岬ありて津波なるとの時次第よ關



多し此のこゝくあるは、  
 今も漸々小閘  
 くといふ元弘の陸地となつて後又海と成る  
 な海濱或ハ千尋濱を以て千里濱の一名と  
 日或ハ千尋ハ海底此深き義  
 小枝の碎けある如く或ハ石炭等此濱に  
 夫木抄  
 多し此のこゝくあるは、  
 今も漸々小閘  
 くといふ元弘の陸地となつて後又海と成る  
 な海濱或ハ千尋濱を以て千里濱の一名と  
 日或ハ千尋ハ海底此深き義  
 小枝の碎けある如く或ハ石炭等此濱に  
 夫木抄  
 多し此のこゝくあるは、  
 今も漸々小閘  
 くといふ元弘の陸地となつて後又海と成る  
 な海濱或ハ千尋濱を以て千里濱の一名と  
 日或ハ千尋ハ海底此深き義  
 小枝の碎けある如く或ハ石炭等此濱に  
 夫木抄

弘長三年五月島哥合

見渡さばふさと此濱の舟まてり  
 立河まてり此濱まてり

海濱の結成 海濱の王子御會

濱月如雪

左中將保通光

寄小浜の月影  
 寄小浜の月影

左中將保通光

寄小浜の月影  
 寄小浜の月影

千首

牡丹花



を妻とてしつるを此に歸ちてをさしけるをくもすのた

夙浦

本村の南南部川の南海口小川を漁事を専と

も

目津

本村に坤十三町より北と海に面す此より海

上小突出たれを目津崎といふ其處小浪小闕

者たる岩何海を犬ととて。岩といふ

○ 狼煙一箇所

高井田山といふ

○ 御所原

千里濱より御幸記に御小養御所といふ

是なる所

○ 地士

中村喜右衛門



氣佐藤村

計九登宇

田畑高

三百九十九石六斗四升八合五夕

家數

三十七軒

人數

三百七十四人

山内村の巽より西へて村居二所より分れる南部川を隔て相對し河を下村と以下村の子丑に方十町許小河ると上村とより村に東に續きて南道北道並植田と人家相接して東西の一路

氣佐藤村



熊野街道カトにて高賈多く家造シより一氣佐藤  
の名義詳シなり

○秋葉権現社境内周十六間

本社の美 拜殿の

村中濱端より寶曆十一年勸請と云ふ神

主と志場新九衛門といふ

○大歳神社境内周十二間上

○舊家 鈴木喜兵衛

鈴木三郎重家と三十一代三郎重則の弟三郎

右衛門重春名草郡藤白浦より此村へ引移り  
代々住居し安藤家より永代十五口を與ふ



南道村

美奈美陀宇

田畑高

百七十二石一斗二升八合七勺

家數

五十一軒

人數

三百七十三人

氣佐藤村の東より門て人家相接と南道とハ

北道に相對する名ぬ熊野街道より以て

いふなり

○ 稻荷社

境内周三十二間

南道村



○村中濱端より天明六年勸請すといふ

○勝専寺 浄土真宗西本願寺末

本堂 方九間 僧坊 十二間 鐘樓

大鼓堂 東に門

村中あり開基ハ志場若太夫といふ者浄土

真宗と歸依一其子若太夫父文明元年蓮如上人

の教化を受け其子了西當寺と建立といふ

什物狸の畫一節切の笛あり 南龍公熊

野御參詣の時當寺に立寄り給ひ一時并領

といふ又親鸞上人蓮如上人顯如上人の名

并等數幅頭如上人石山籠城の時乃書翰其餘

玉若水花鳥二幅鐵眼書數幅祭輝山水畫一幅

蜀江錦の切等あり



北道村

幾多陀宇

新田新町

田畑高 百七十四石五升八合五夕

家數 百六十九軒

人數 八百九十七人

南道村の北よりありて村居相接き古ハ熊野往還なり故ヨ道村の名あり新田新町と本村の南ヨ相接して往還にあり左右小松原あり左をハ俗名を記の松原といへり熊野權現也

北道村



方へ枝なひききり何れといふ

○王子権現社 境内周六十四間

末社二社 并殿

村中にある御幸記小三鍋王子と何れ是れ

古道變りて今ハ熊野往還より何れ

○小祠二社

衣比須社 社地周二十六間新  
町より何れ并殿何れ

稻荷社 社地周十二間王子社  
の向よりあり昔ハ稻荷

免とて神田村中  
より何れといふ

○地藏堂二字 とも村中  
あり

○地士三人

鈴木彦右衛門

山内太郎兵衛

津村並大夫



芝村

志婆 新田 新屋敷

田畑高 四百四石七斗九升五合九夕

家數 八十六軒

人數 六百四十五人

北道村の東にあつて相接と芝原を間墾せし  
とて村名起る素りし新田新屋敷ハ本村以南  
熊野往還にあり

加茂明神社

社地周四十二間村中より  
社地より大なる楠樹あり

芝村

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*



○安養寺

天神山 真言宗古義京仁和寺末

本堂

六間半  
五間半

太子堂

僧坊

鎮守社

村中に所て開基詳なく以寛和中より惠心院源信僧都の寺ありて七堂伽藍地ありといふ天正中舊記録起等皆燼滅其後真言宗とあり近年境内より勾玉瑠璃玉鍬石金環瓦器等を掘り出し又文永十年の石碑を掘出ると文字磨滅して讀む難から以唯爲先考往生極樂御造立之比丘尼持運といふ字見ゆ當寺今ハ

西本莊村御靈社の神宮寺なり

○地福寺

真言宗古義村中安養寺末  
村中ハあり

○法傳寺

灌頂山 淨土宗西山派筋村超世寺末

本堂

方七間

僧坊

鐘樓門

村中小あり寛文頃僧一空といふとの再興

なりといふ

○觀音堂

村中ハあり修驗者の持なり

○舊家

地士 芝 藤六

其祖の出る所詳あらば御靈社永正十年棟札



よ西公文芝藤六堀籠源七とあり此時代より  
芝氏公文職を勤めしなり慶長檢地以後猶  
公文分高七十石餘徳藏氣佐藤芝三箇村より  
収納し來る其後次第減し今ハ芝村より三  
石公文分として受取るといふ慶長中淺野家  
より屋敷高五石を免許し今ハ安藤家より免  
許し豊太閤の定書を藏し文書部より又湯川直  
春等の文書を傳へたり

地士四人

海野太郎右衛門

鈴木九之助

古谷仙右衛門

堀籠辨右衛門



埴田村

波福陀

田畑高 二百七十石一斗六升一合五夕

家數 四十七軒

人數 六百二十三人

芝村の新田新屋敷の南三町半小河を埴田を  
開墾せしよを村名とす

○鹿島明神社

境内周百三十二間

島の中の小河を祀神、常陸國鹿島と同しく武



魔槌命なることいへり寶永四年十月四日の大  
津浪よ山内村流出せし時沖より大浪来りし  
此邊の數村流亡せんとするよ圓に光物出  
其浪大小二よ破れ大なるは東へ行き小なる  
は此浦へよせたり後其光物鹿島の御山へ  
飛歸りしといふ傳ふ

○衣比須社濱

○藥師寺神將山 淨土宗西山派筋村超世寺末

本堂方五間 鐘樓 僧坊

村中より何れ元和の頃正順といふ僧居住せし  
より代々淨土宗となす

○鹿島

村の坤海上八町より何れ奇巖累々として巖上  
より三の森となす其寫の中明神社ありし  
かして人家あり毎年八九月此頃釣を垂る  
との多し此邊の浦よ海馬といふ物あり妊婦  
此を掌よ扱きて産よ臨めハ安産をといふ鹿  
島の名方万葉集よ見えた



万葉集

大寶元年辛丑冬十月 太上天皇幸絶紀伊國

時歌十三首の中

三名部乃浦塩莫満鹿島在釣島海人乎見變来

六 此歌の意を按とゆと干塩よハ南部よ陸よ

て往来せしなむ

堺村

佐迦比

田畑高 百七十九石八斗八升四合五夕

家数 三十軒

人数 二百六人

埴田村の南十三町小町を牟婁日高兩郡の堺  
海濱より熊野街道なり村中より牟婁郡芳  
養庄下村の堺袖摺岩より六町半許

○山王權現社 境内森山周三十六間

堺村



本社末社二社并殿

村の良より江州叡山坂本より勧請とい

ふ神主志場氏なり

衣比須社

社地周四十二間村中より

吉田村

奥志陀

田畑高

三百六十四石八斗一升三合五夕

家數

二十八軒

人數

百三十二人

芝村の北より吉田ハ良田の義なり

王子社

社地周七間

薬師堂二字

境内森周三十間此地もと村民堀籠氏の居宅の地より同人の祭る處といふ

舊家

堀籠氏

吉田村



其袒詳な〜以永正十年御靈社棟札より公文  
 芝藤六堀籠源七といふ所は其餘代々芝氏と  
 相並りて南部の公文職たる慶長年中日高郡  
 一揆の時田邊城より功ありしを賞して淺野左  
 衛門佐より當村屋敷高五石を與ふ當領主と  
 是れ此より仍りし頃の事なりと  
 いふ光春直春とて林氏への感状を藏と文書部  
 出せ

熊岡村

久麻加

田畑高 三百十一石五斗二升九合四夕

家數 十八軒

人數 百七十五人

吉田村の長十五町より村居散在は西南の  
 谷より小名岡廻りといふあり地形より依るは隈  
 岡の義ならむ慶長檢地帳より熊賀といふ土人を  
 皆然唱ふ所を千加の千自然と畧すたるを

熊岡村



㊦

○辨財天社

境内周二百四十八間

攝社安産宮

并殿

村の東より

○愛宕権現社

境内周百二十二間

末社二社

并殿

村中より

○道林寺

浄土宗西山派筋村超世寺末  
村中より

山田村

也麻陀

田畑高

七百三十三石五升四合五夕

家數

四十五軒

人數

五百四十七人

熊岡村の北七町より村中上村下村と分  
といへるを家居ハ雜とす

○若宮

社地周八十間  
上村より

○光明寺

浄土宗西山派筋村超世寺末

山田村



○本堂 五間

僧坊

地藏堂

○上村より何れ地藏堂ハ昔用光峠并何れ一を安永年中ここに移せり

○常樂寺

本堂

僧坊

上村より何れ真言宗より修驗者持るり

○藥師堂

下村より

德藏村

登久邪宇

田畑高 四百二十六石九斗一升二合三勺

家數 二十五軒

人數 百四十五人

吉田村の北九町より何れ村居川より添ふ名義詳ならず以徳藏名るといふり村名とるは是なり

○牛頭天王社

境内周三十二間

徳藏村



村中畑中より何れ并殿あり西本庄村御霊宮と  
了勧請といひ傳ふ

筋村

須自

田畑高 四百五十六石九斗四升  
家數 四十五軒  
人數 二百三十六人

德藏村の北よりあり村居大川の両方にあり名  
義詳ならぬ

○若王子社 境内周九十間

末社二社 并殿

筋村



村の端にあつて北道村の三鍋王子を勧請し  
いふ長享二年再興に棟札あり

○小祠二社

天神社

社地周四十二間  
村の山手あり

大將軍社

村の畑中  
あり

○超世寺

壽養山

境内周二十八間

浄土宗西山派名州郡梶取村惣持寺末

本堂

方九間

地藏堂

鐘樓

僧坊

子院

常福寺

本坊の南  
あり

正福寺

本坊の西  
あり

徳藏村堺にあり天正頃浄土宗の僧侶空受言  
といふ者建立といふ傳ふ末寺十四箇寺庄  
中及岩代庄牟婁郡田邊庄あり



谷口村

多爾具智

田畑高 五百二十八石九斗九合

家數 六十軒

人數 三百六十人

筋村の東より村は北ハ西本莊村ハ小名瓜  
谷に接する處より谷口ハ名有り村中田地の中  
に總ある森三處有り土人三森といふ昔よ  
り此水と伐たは崇有りといふ何の故あるか

谷口村



○阿彌陀堂

村中川の

此堂は村中川の北にあり、昔も  
寺と云ふが、谷口にあり、村中川の  
北にあり、昔も寺と云ふが、

入道 三百六十八

老道 六十神

田畑高 五百二十八

谷口村 延暦元年

東本莊村

比賀志保芸自也序

小名邊川受領

田畑高 七百七十六石八斗八升一合九夕

家數 八十軒

人數 五百五十二人

谷口村の北五町にあつた本莊は名南部莊の本  
莊なるへ本村は北十二町に谷あり小名邊  
川其谷口よりあり邊川の東十八町谷は源に受  
領あり



○一宮權現社

境内周四十間

末社二社

并殿

村中にあり日吉權現といふ西本莊村に御靈宮を勧請せしむる前ハ當莊の産土神ありといふ文明八年上梁札あり今傳はらば天文十五年棟札 本願邊川八郎左衛門尉直吉といふ

○八幡宮

境内周八十八間

邊川にあり并殿あり

○小祠五社

大將軍社

社地周十二間  
受領あり

八幡宮

社地周十二間  
村の北あり

藏王權現社

社地周六十八間

辨財天社

社地周二十間

大將軍社

社地周四十間  
三社共  
よ村の南あり

來迎寺

聖衆山

淨土宗西山派筋村超世寺末

本堂

方五間

觀音堂

僧坊

村中にあり開基知より元和の頃宗慶といふ僧再建といふ

○觀音堂

受領あり



西本莊村

爾志保芸自也宇

田畑高

七百四石六斗九合

家數

八十七軒

人數

六百五十二人

東本莊村の西川と隔るゝ相對小名瓜谷本

村の南六町と河名本並藤岡山田十五箇村

祇園御靈宮 山内岸並藤岡山田境内方四町

本社三社

各表行  
六尺四寸

西本莊村



末社六社

并殿九間半

籠所三間半

村中にあり山内氣佐藤北道南道殖田環芝吉  
 田徳藏筋谷口東西本莊熊岡山田十五箇村の  
 氏神ありて莊中の大社なり京師御靈宮を勸  
 請せしといふ縁起舊記等天正の兵火は鳥有  
 となりて勸請の来由等詳ならぬ棟札數枚あり  
 ・明德四年領主愛洲兵部大輔入道沙彌明禁  
 了并前下野守源朝臣行長若官造管文安四年  
 三宮上喜永正十年地頭小野氏野邊彌六慶景  
 再興永禄五年再興等あり野邊慶景再興の時  
 神戸を寄せ神馬等と境内は御屋形といふ地  
 獻せしといふ傳ふ

あり勸請の時勅使下向して休足せし地を

是といふ礎あり今に毎年祭禮は其礎に前より

て神前同様の祭式をなす事あり古ハ神宮寺

二箇寺神職數十人あり神領も多かりしと

いふ田地の字小御供田車免次今ハ社僧一人

安養寺に別當一人禰亘二人神子一人あり

寺の本尊ありとて今境内は地藏の堂あり

○小祠七社

權現社

若宮といふ社地周八間

天神社

社地周九十六間



権現社

社地周四十間三  
社共村中よあり

山王社

社地周百  
四十間

天王社

社地周百十  
二間

大將軍天王兩社

社地周七十  
二間四社共

村端  
より

極樂寺

願西山

浄土宗西山派筋村超世寺末

村中より舊ハ満福寺といふ

小堂五宇

薬師堂

村の北六七  
町より

観音堂三宇

一ハ村の南より一ハ村の西  
にあり一ハ村の西南より

阿彌陀堂

境内周四十間村の南五町許より  
古ハ久米寺といふ伽藍ありといふ

平須山城跡

村の良山  
上より

○幡山城跡

要害城といふ

村の西北にあり二城といふ野邊彈正左衛門尉

の居城といふ牟婁郡芳養目良氏の藏しる畠

山家は文書より野邊六郎右衛門尉といふあり

御霊社永正の棟札より地頭小野氏野邊彌六郎

景といふあり皆此城主なるべし今東本庄村

に野邊の後ありといふと云ふと此所とも系圖詳

なり

○盆山石







一 如たし南部川源と名之内よ發して輕井川  
木之川神野川等諸谷の水を合せ東より來  
て高野川市井川等の水北より此地よ會して  
水勢漸大よして落ちて瀧と名給その地西崖  
怪巖對出して其間一躍して踰りて如く  
如く奔流を以て間小懸流事一丈許潭底深さ  
測るへや以て左右巖脚皆水よ啗食せらる形  
屋簷の如くして奥深く幾許あるを知らず潭  
底水沸騰奔激して響雷霆の如く神驚き體慄

して久く視るに如く奇觀といふへい瀧よ  
て以下三町餘西崖大巖壁立してその中央  
一條に激流を通り數金間を流る如くみして皆  
人力の及まざる所實に畏工なるを瀧を以て村  
名とて誠は當りて當村居十箇處に分るが高  
野川筋に居る者六南部川筋に居るもの四ふ  
て古く瀧高野熊瀨川土井市井川平野島瀨神  
野川八箇村と合せて南部川村といふ後各別  
持となす也



○小祠二社

住吉社 社地周一町二十間  
小名沼川よあり

阿波僧大明神社 社地周一町半小名

西田といふよあり  
祀る神詳ふらり

○十輪寺 如意山

禪宗臨濟派若山禪林寺末

本堂 五間  
四間半 僧坊

龍神山城守の建立といふ高野村天寶社の文  
祿の棟札に筆者十輪寺と書以此寺の僧なり

○阿彌陀堂 小名西田  
よあり

地士 古谷兵藏

高野村

多迦乃 南部川郷分村

田畑高 百六十八石九斗五夕

家數 五十七軒

人數 二百六十一人

瀧村の北よ何ぞ瀧村より上ハ谷ニ分きて  
當村を以北の谷亦在りて土地高し因りて村  
の名と云

○天寶明神社

境内山林周二町二十間



末社二社

拜殿

小名宮の前より何れ高野土井市井川瀧平野五箇村の産土神なり勸請の來由及天寶と稱する事詳るらば文祿四年修造の棟札何れ社御靈同神を祀るといひ或は大和國銀嶽波實神社と同神なりといふ

熊瀨川村

俱麻世賀波

南部川郷合村

田畑高 百五石二斗二升

家數 二十五軒

人數 百二十五人

高野村の西二十八町より高野の谷北西よりして別に小谷の中より居る兩山元を谷狭し故に隈瀨の名あり

三所明神社

境内周二町十間



小名瀧尻組といふより并殿あり祀神詳る  
らば

土井村

村章

南部川郷分村

田畑高 百二十七石二斗九升三合

家數 二十九軒

人數 百十五人

瀧村の北十八町より高野村の谷より東に  
分れて別々小谷の内より龍神氏城と鶯巢  
山に築きて村中より下屋敷在り因りて土居の  
名起より素らむ



○若宮明神社 社地周一町相村の南山の麓にあ

○鷺巣山城跡 龍神氏其祖を祀るといふ

村は南六町餘より龍神山城守南部川谷を  
領し此地より居城を築死す跡といふ龍神氏の  
事、島瀬村より詳なり

田畑高 百一十石五斗七升五合五夕  
家數 二十七軒  
人口 百八十八人

市井川村 伊智草賀波 南部川郷分村

田畑高 百五石五斗七升五合五夕  
家數 二十七軒  
人口 百八十八人

土井村の北十二町谷奥より古樫の大樹あり  
ありしは村名とあり

○王子宮 社地周一町四十四間小  
名栗原といふより

市井川村



平野村

比良乃 南部川郷分村

田畑高 八十三石五斗六升二合一夕

家數 十三軒

人數 八十三人

瀧村の東十二町に河内谷間や、開きたれを  
以て平野れ名つた



島瀬村

志麻乃世

南部川郷合村

小名穂子見

田畑高

百二十五石八斗二分四合

家數

二十七軒

人數

百七十三人

平野村の東八町子何々村居南部川小添ふ今  
小名に島瀬垣内といふありこよを取りて村  
名とすゆな名義と字の如し小名も穂子見  
といふあり



○萬年寺 林高山 淨土宗西山派 筋村超世寺末

本堂 方五間 増坊

天正乙酉年焼失し後再興六十人地土

○舊家 六十人地土 龍神幸石衛門

家系といふ源三位頼政の男に頼氏といふ者が父頼政生害の後京都を落りて當國日高郡龍神谷に遁を來り其地を領せ因りて龍神を以て氏とす其裔南部川谷を領して土井村に城を築き居城とす 輕井川村天寶明神社永正

十四年の棟札に山城入道及龍神新藏人正忠等の名あり土井落城以後次郎七郎といふ者あり當村へ移り農を業とす 元和七年六十人地土に命せらるる今も相續す



神野川村

迦宇乃賀波

南部川郷分村

田畑高 百六十六石六升

家數 二十九軒

人數 三百三十一人

島瀬村の北十七町五町南部川谷の北の方  
技谷の中村居以村中天寶明神鎮座  
を以て神の川は名何也

○天寶明神社

境内周一町二十間



末社一社

并殿

小名帆柱といふは何れ島瀬神野川二箇村の

産土神なり龍神和泉守高野村より勧請せりと

いふ村は北十町西の村にあり高野村にあり

入道

三百三十一人

老翁

二十一人

田畑高

百六十六畝六斗

村にあり

南西にあり

南西にあり

木之川村

幾の辺波

大川郷分村

田畑高

四百十七石三斗二升七合八夕

家數

百四軒

人數

千百二十六人

島瀬村の東神野川領を經て十七町より當  
村及輕井川下大橋大橋名之内の五箇村と合  
して古ハ大川村といひ一ハ後各別村となせ  
て村居大川筋小のちと小名宇呂布須美長瀧



こいふ小川筋より流を大野垣内西木原といふ

○天寶明神社 境内周百二十間

本社 末社二社 拜殿

大野より河下一村の産土神なる昔高野村より

○勸請をといふ

観音堂 大野より

輕井川村 迦留韋賀波 大川郷分村

田畑高 水之川村より合せ出たり

家數 同

人數 同

水之川村の東十三町半にあり北ハ山地庄と  
峯と塚と以村居溪流より添えて大川の枝谷小  
河より村三に分り石倉川口谷といふ村は名  
義詳るる以相横及信濃より輕井澤といふ河より

輕井川村



以の道山中の稱を致す

○天寶明神社

境内周二百四十間

末社二社

并殿

川口より一村の産土神なる龍神山城入道  
高野村より勸請以永正十四年の棟札より天寶  
大明神より御勸進并南部庄土生當南部川之  
内願進餘事實也於日後此隔自肝要也山城入  
某と何也

○小祠二社

八幡宮

社地周十八間谷より

稻荷社

社地周三十二間川口より末社若宮何也

○本誓寺

天養山

禪宗關山派年婁郡田邊海藏寺末

本堂

七間半  
四間半

僧坊

川口より何也



下大橋村

志毛於保波志

大川郷分村

田畑高 木之川村に合せ出せり

家數 同

人數 同

輕井川村の巽十三町半ありて村居大川に添  
ふ日裏捧免幾を芝等の小名あり

○八幡宮

境内周八十二間

本社 末社二社 并殿



小名波世といふより

○ 観音堂 小名捧免幾といふより

日暮野原... 寺... 小... 八十二間

入道

若雅

田畑高 木三川村と合して出せり

大橋村 大川郷分村

大橋村

於保波志

大川郷分村

田畑高 水之川村と合して出せり

家数 同

人数 同

下大橋村の良九町より河野大川の兩岸に村居して大屋垣内於布地垣内と二に分くる今村中綴り小橋のといふとも古ハ大橋といて村名となし致素らむ



○八幡宮

社地 周三十二間  
大屋垣内より

○萬福寺

浄土宗 鎮西派 牟婁郡田邊 淨恩寺末

本堂 方五間

僧坊

大屋垣内より 天正中より焼失して 後再興

名之内村

美也字乃字智

大川郷分村

田畑高 水之川村 合せ出せ

家數 同

人數 同

大橋村の良十四町より 村居川より添わて 散  
在る南部川の源より 村名ハ田畑の字より 某名  
といふあり 此地其名ハ中といふより 出るる  
ならむ 中平松平早稲田箱木鍛治屋寺谷等の

名之内村



小名あや村の三方ハ高山よりして諸庄と堺し  
深山幽谷なり唯坤の一方纔ハ溪流通じ其の

○天寶明神社

境内周百四十間

本社 末社三社 并殿

小名鍛冶屋中何より下大橋大橋名之内三箇村  
の氏神なる昔高野村より勸請せしといふ

○八幡宮

社地周七十間  
早稲田よりあり

○笹峠

村の北秋津庄の堺ハ山より何里牟婁郡田邊よ  
り龍神への往還なる田邊より秋津庄伊作田  
邊より至り當村より下りて是より此峠を起<sup>越</sup>す  
あり

○虎山嶺

村の良五十町許より何より高山なる牟婁郡栗  
栖川庄當郡山地庄柳瀬村と峯と堺と以南部  
大川の源なる

○切谷越



虎嶺の側の峠より栗栖川庄鍛冶屋川の内  
乃小名小野村へ越ゆる山道あり



書寫

監谷平次郎

圖畫

野際蔡春

校合

栗本隼吉

原卯吉





圖書

文庫

圖書

文庫



